

# 男女共同参画に関する 市民意識調査

## アンケート結果報告書

令和2年1月  
坂井市



# 【 目 次 】

1. 調査の概要	1
2. 調査結果の概要	2
3. 調査回答者の属性	4
4. 調査結果	8
I. 男女の役割や地位に関する意識について	8
II. 仕事と家庭生活・地域活動の両立について	12
III. 女性の仕事・活躍推進について	19
IV. 性と人権について	22
V. 男女共同参画社会の実現について	26
自由記述	29
5. 調査票	30



# 1. 調査の概要

## 1-1 調査目的

平成20年4月に策定された「坂井市男女共同参画推進計画」の計画期間が終了し、新たに「第2次坂井市男女共同参画推進計画」を策定するに当たり、男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査・把握し、具体的施策見直しの基礎資料とすることを目的に実施する。

## 1-2 調査項目

- 男女の役割や地位に関する意識について
- 仕事と家庭生活・地域活動の両立について
- 女性の仕事・活躍推進について
- 性と人権について
- 男女共同参画社会の実現について

## 1-3 調査対象と調査方法

- (1) 調査対象：坂井市内に居住する20歳以上の市民2,400人を無作為に抽出
- (2) 調査方法：郵送配布・郵送回収
- (3) 調査期間：平成31年4月19日～令和元年5月17日

## 1-4 回収結果

調査対象数：2,400件  
回収数：827件  
回収率：34.5%

## 2. 調査結果の概要

### I. 男女の役割や地位に関する意識について

男女の地位に関する設問について、多くの分野で、「男性優遇」の割合が「女性優遇」より高くなっている。また、「平等になっている」の割合が最も高いのは「学校教育」となっている。性別から傾向をみると、男女ともに「平等になっている」の割合が最も高いのは「学校教育」、次いで、男性は「法律・制度」、女性は「地域活動」となっている。

前回調査（平成24年度）では、「男性優遇」の割合が最も高かったのは「社会通念」、次いで「政治」となっていたが、今回は「政治」、次いで「社会通念」となっている。

「男（夫）は仕事」、「女（妻）は家庭」という男女の役割分担意識に関する設問について、最も割合が高いのは、「反対」（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）の54.2%となっている。

### II. 仕事と家庭生活・地域活動の両立について

家庭の役割分担に関する設問について、現実における役割分担では、「日常の家事」「日常の家計管理」「子育て」は「主として妻」が担っている割合が高い。理想の役割分担では、「日常の家事」「日常の家計管理」「子育て」「高齢者、病人の介護・看護」「家庭における重要な決定」において、「夫婦同程度」の割合が高く、特に「高齢者、病人の介護・看護」（現実11.3%、理想78.0%）は現実より理想が66.7ポイント高いことから、役割分担に関しては、現実の家庭生活と理想とでは、大きな差があることがうかがえる。

性別で傾向をみると、現実における役割分担で「夫婦同程度」の割合が最も高いのは、男女ともに「家庭における重要な決定」、次いで「生活費の確保」となっており、理想の役割分担で最も高いのは、男女ともに「高齢者、病人の介護・看護」、次いで「子育て」となっている。

地域活動に関する設問について、参加が最も多い活動は、「自治会やまちづくり協議会等の活動（地域の祭り、清掃活動など）」となっている。年齢別にみると、20歳代では「参加したことがない」が6割となっており、若い世代の地域活動に参加する割合が低くなっている。また、参加している活動で、「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」は他の項目に比べて割合が高く、地域の中で性別役割分担が根強いことが考えられる。

男性の育児・介護休業に関する設問について、「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせた割合が、育児休業では約7割、介護休業では8割となっている。年齢別にみると、育児・介護休業ともに概ね若い世代が「取る方がよい」と回答している。また、前回調査と比べても、全体、性別で「取る方がよい」の割合が増加傾向にあり、環境や意識の変化がうかがえる。

男性の育児・介護休業の取得が進まない理由として、「家庭の収入が減少するから」「職場の風土」があげられている。

### Ⅲ. 女性の仕事・活躍推進について

女性が働き続けることに困難や妨げを感じる人が5割を超えており、その内容としては、「育児」が最も多くなっている。

女性の管理・監督職への昇任の設問について、「希望しない（しなかった）」の割合が5割を超えており、理由として、「仕事と家庭・育児等の両立が難しいから」「責任が重たくなるから」「残業や出張が増えるから」があげられている。

仕事と家庭を両立したいが、家庭を優先している女性が多いことがうかがえる。

### Ⅳ. 性と人権について

ドメスティック・バイオレンス(DV)被害に関する設問について、受けたDV（「何度もあった」と「1、2度あった」をあわせて）として「大声でどなる」が約7割と最も高くなっている。

性別で傾向をみると、DVを経験した割合が最も高いものは、男性は「話しかけても無視して返事をしない」、女性は「大声でどなる」となっている。

DV被害を受けた人のうち、約6割が相談に行かなかったと回答しており、理由として「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」が約4割と最も高く、声があげづらかったり、DVである自己認識がなく、相談に至らないことがうかがえる。

### Ⅴ. 男女共同参画社会の実現について

「ことがら」や「ことば」に関しての設問について、「よく知っている」「知っている」を合わせた割合で「マタニティ・ハラスメント」「LGBT」が高くなっている。一方で、「ポジティブ・アクション」「坂井市男女共同参画推進条例」の割合は1割未満となっており、認知度が低いことがうかがえる。

政治・経済・地域などの各分野での女性リーダーの進出による影響に関する設問について、「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「女性の声が反映されやすくなる」「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」の割合が高く、肯定的な考えが多い。

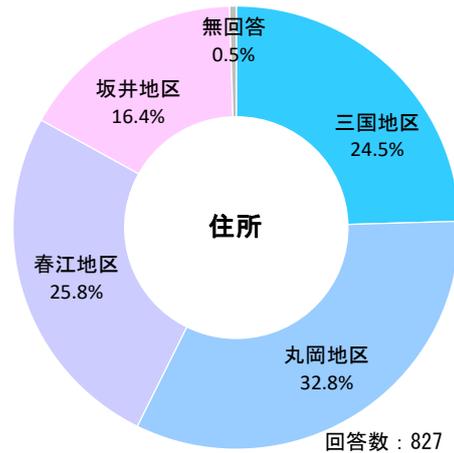
「男女共同参画社会」を実現するために、行政が取り組むべきことについて、「保育や介護にかかる施設・サービスの充実」「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女が共に働く働き方の見直し」があげられている。

### 3. 調査回答者の属性

#### 問1 住所

三国地区	203
丸岡地区	271
春江地区	213
坂井地区	136
無回答	4
合計	827

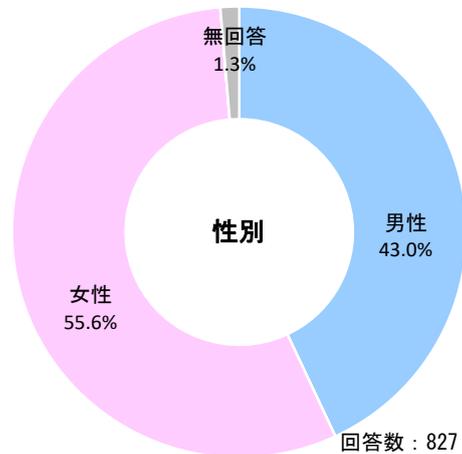
『住所』は、「丸岡地区」が32.8%と一番多く、次いで「春江地区」が25.8%となっている。



#### 問2 性別

男性	356
女性	460
その他	0
無回答	11
合計	827

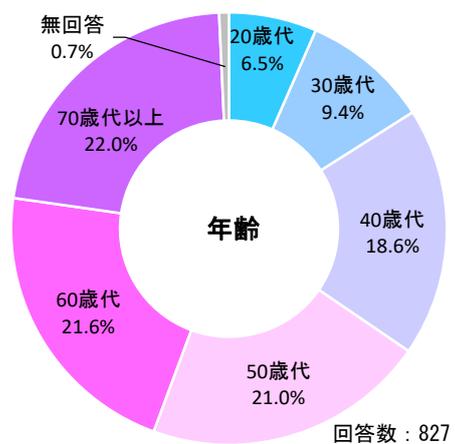
『性別』は、「女性」が55.6%と一番多く、次いで「男性」が43.0%となっている。



#### 問3 年齢

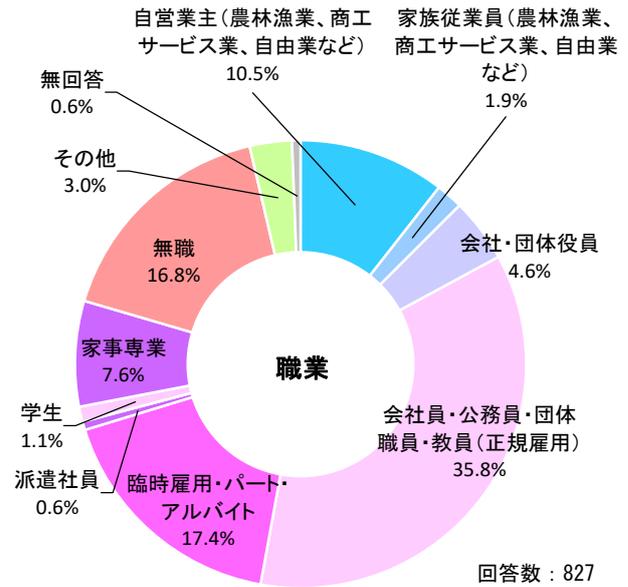
20歳代	54
30歳代	78
40歳代	154
50歳代	174
60歳代	179
70歳代以上	182
無回答	6
合計	827

『年齢』は、「70歳代以上」が22.0%と一番多く、次いで「60歳以上」が21.6%となっている。



#### 問4 職業

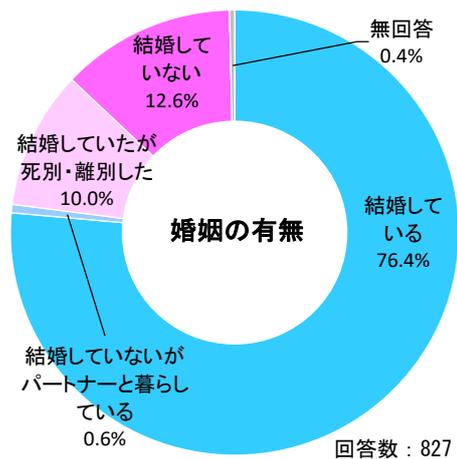
自営業主 (農林漁業、商工サービス業、自由業など)	87
家族従業員 (農林漁業、商工サービス業、自由業など)	16
会社・団体役員	38
会社員・公務員・団体職員・ 教員 (正規雇用)	296
臨時雇用・パート・アルバイト	144
派遣社員	5
学生	9
家事専業	63
無職	139
その他	25
無回答	5
合計	827



『職業』は、「会社員・公務員・団体職員・教員(正規雇用)」が35.8%と一番多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が17.4%となっている。

#### 問5 婚姻の有無

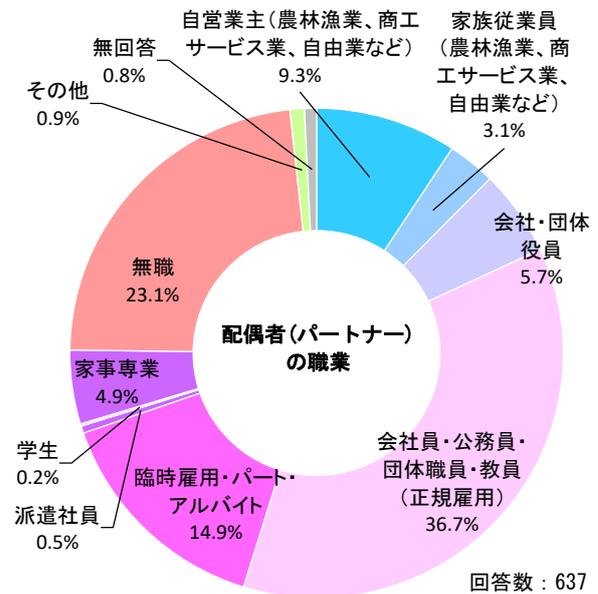
結婚している	632
結婚していないがパートナーと暮らしている	5
結婚していたが死別・離別した	83
結婚していない	104
その他	0
無回答	3
合計	827



『婚姻の有無』は、「結婚している」が76.4%と一番多く、次いで「結婚していない」が12.6%となっている。

## 問6 配偶者(パートナー)の職業

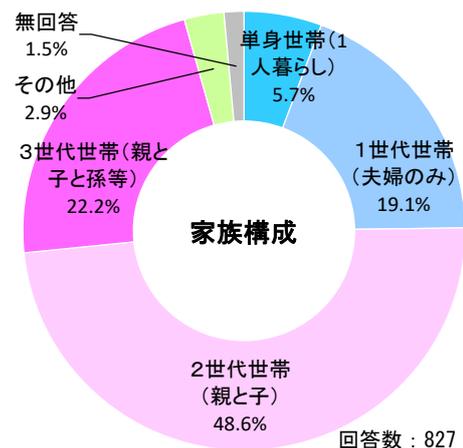
自営業主 (農林漁業、商工サービス業、自由業など)	59
家族従業員 (農林漁業、商工サービス業、自由業など)	20
会社・団体役員	36
会社員・公務員・団体職員・教員 (正規雇用)	234
臨時雇用・パート・アルバイト	95
派遣社員	3
学生	1
家事専業	31
無職	147
その他	6
無回答	5
合計	637



『配偶者(パートナー)の職業』は、「会社員・公務員・団体職員・教員(正規雇用)」が36.7%と一番多く、次いで「臨時雇用・パート・アルバイト」が14.9%となっている。

## 問7 家族構成

単身世帯(1人暮らし)	47
1世代世帯(夫婦のみ)	158
2世代世帯(親と子)	402
3世代世帯(親と子と孫等)	184
その他	24
無回答	12
合計	827

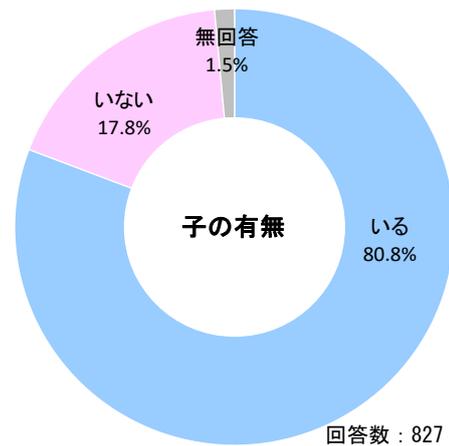


『家族構成』は、「2世代世帯(親と子)」が48.6%と一番多く、次いで「3世代世帯(親と子と孫等)」が22.2%となっている。

### 問8 子の有無

いる	668
いない	147
無回答	12
合計	827

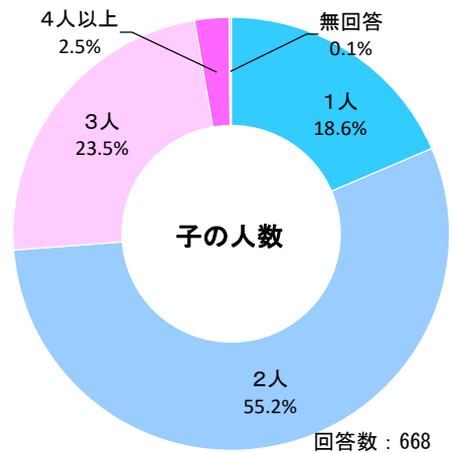
『子の有無』は、「いる」が80.8%と一番多く、次いで「いない」が17.8%となっている。



### 問9 子の人数

1人	124
2人	369
3人	157
4人以上	17
無回答	1
合計	668

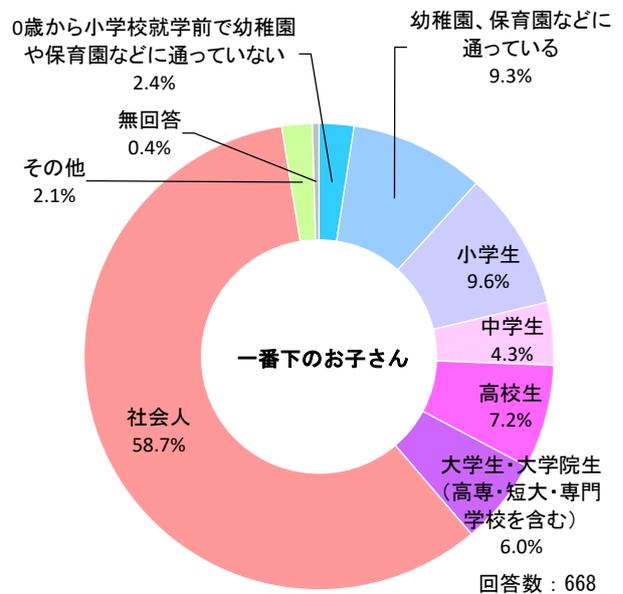
『子の人数』は、「2人」が55.2%と一番多く、次いで「3人」が23.5%となっている。



### 問10 一番下のお子さんは

0歳から小学校就学前で幼稚園や保育園などに通っていない	16
幼稚園、保育園などに通っている	62
小学生	64
中学生	29
高校生	48
大学生・大学院生（高専・短大・専門学校を含む）	40
社会人	392
その他	14
無回答	3
合計	668

『一番下のお子さんは』は、「社会人」が58.7%と一番多く、次いで「小学生」が9.6%となっている。



## 4. 調査結果

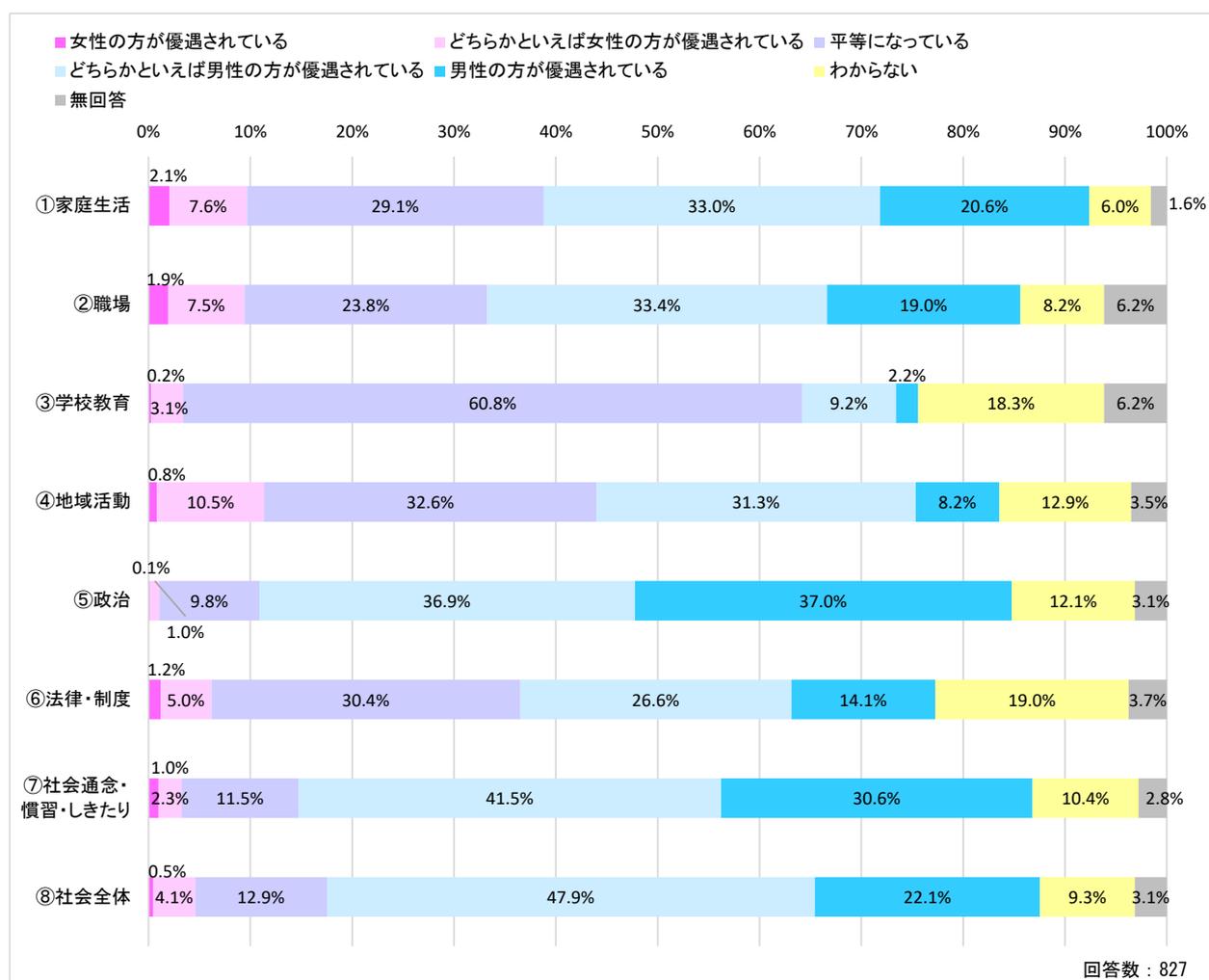
### I. 男女の役割や地位に関する意識について

#### 問1 あなたは、次の各分野で、男性と女性は平等になっていると思いますか。

各分野において、男女が平等であるかどうか尋ねている。多くの分野で、「男性優遇※」の割合が「女性優遇※」より高くなっている。「男性優遇」の割合が最も高いのは、「⑤政治」で73.9%、次いで「⑦社会通念・慣習・しきたり」が72.1%、「⑧社会全体」で70.0%となっている。全く異なる傾向を示すのは「③学校教育」で、「平等になっている」の割合が60.8%と過半数を超えている。また、すべての分野で、「女性が優遇されている」という割合はきわめて少ない。

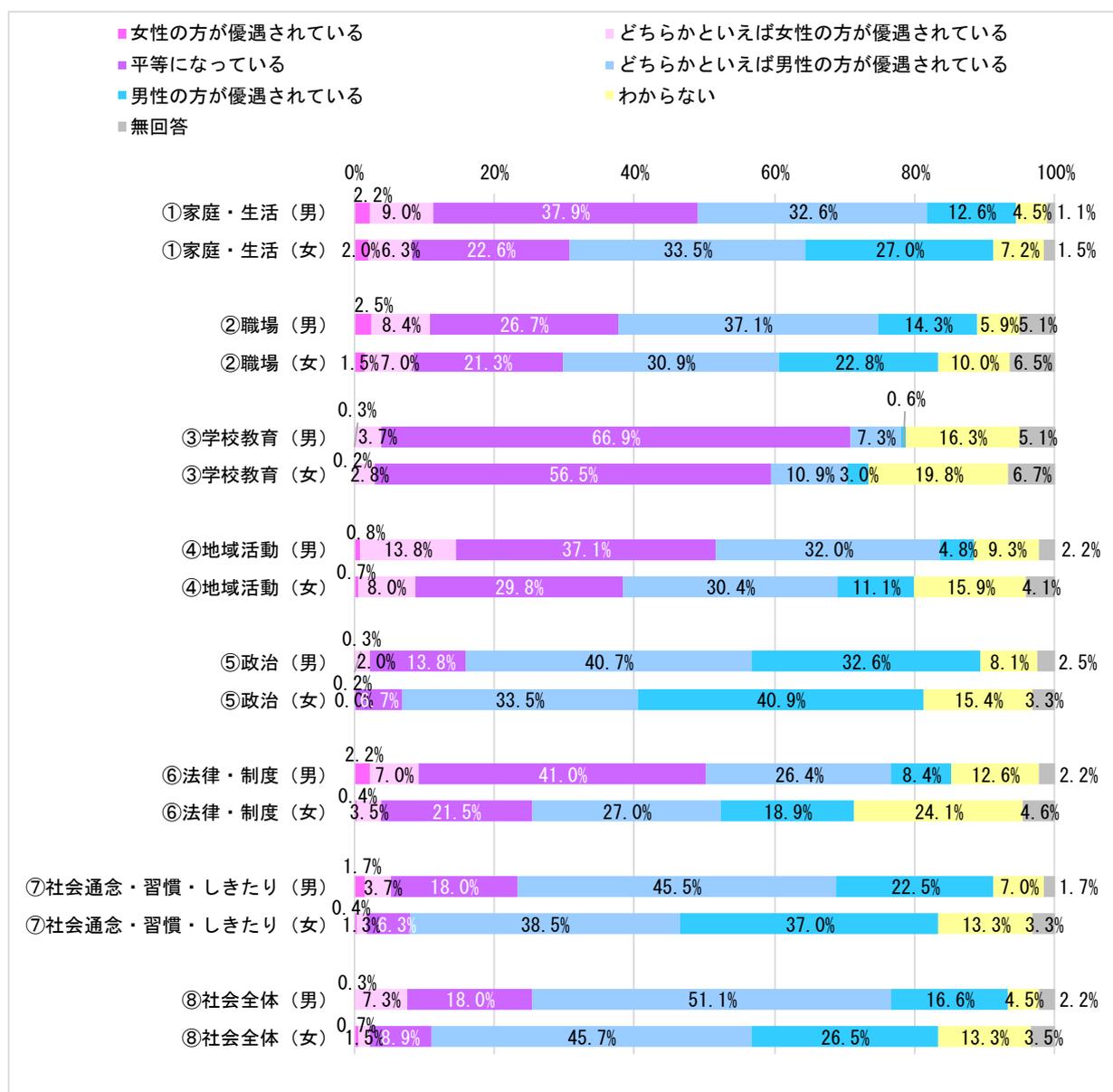
※「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の合計

※「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」の合計



## ■性別の傾向

「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女ともに「③学校教育」で、男性では66.9%、女性では56.5%を占めている。次いで、男性は「⑥法律・制度」で41.0%、女性は「④地域活動」で29.8%となっている。



■全体で前回（平成 24 年度）との傾向

前回の調査で「男性優遇※」の割合が最も高いのは、「⑦社会通念」で 75.8%となっており、次いで、「⑤政治」で 72.0%となっている。

今回の調査で「男性優遇」が最も高いのは、「⑤政治」で 73.9%となっており、次いで、「⑦社会通念」で 72.1%と、前回と異なる結果となった、

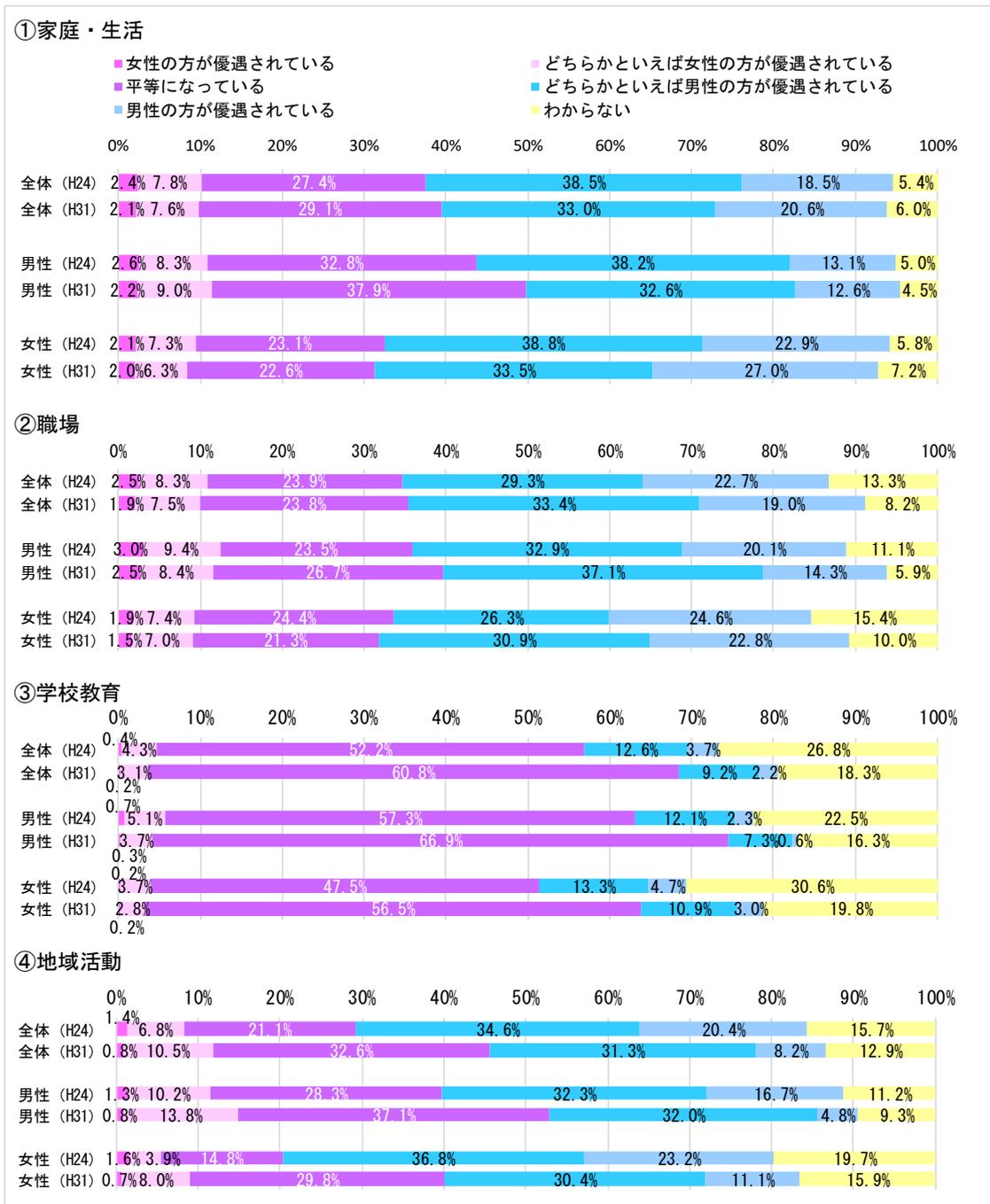
■性別で前回（平成 24 年度）との傾向

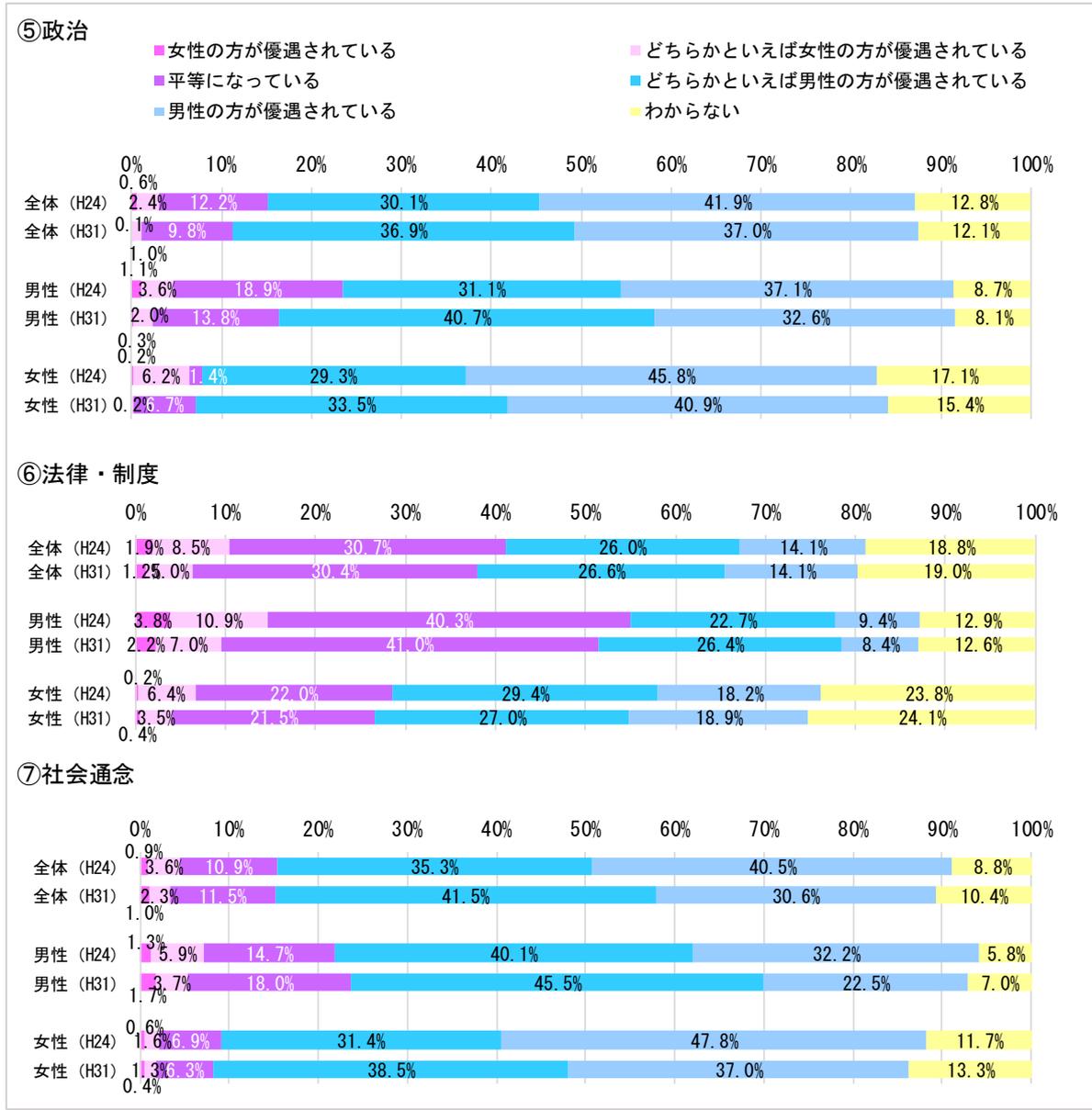
前回の調査で「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女ともに「③学校教育」で、男性は 57.3%、女性は 47.5%となっている。次いで、男性は「⑥法律・制度」で 40.3%、女性は「②職場」で 24.4%となっている。

今回の調査で「平等になっている」の割合が最も高いのは、男女共に「③学校教育」で、男性は 66.9%、女性は 56.5%となっている。次いで、男性は「⑥法律・制度」で 41.0%、女性は「④地域活動」29.8%となっており、今回の女性の回答は異なる結果となった。

前回の調査で「⑧社会全体」の項目は設けていなかったため、グラフ一覧からは除いている。

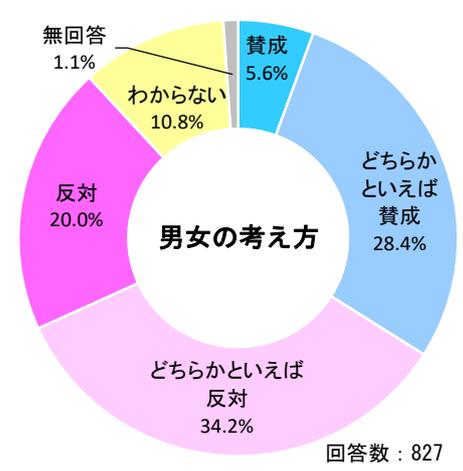
※「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「男性の方が優遇されている」の合計





問2 「男（夫）は仕事」、「女（妻）は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

最も高い割合は「どちらかといえば反対」が34.2%、次いで「どちらかといえば賛成」28.4%となっている。「どちらかといえば」を含んでの回答で最も多いのは「反対」54.2%、「賛成」34.0%となっており、「反対」と考えている人の人が多い。



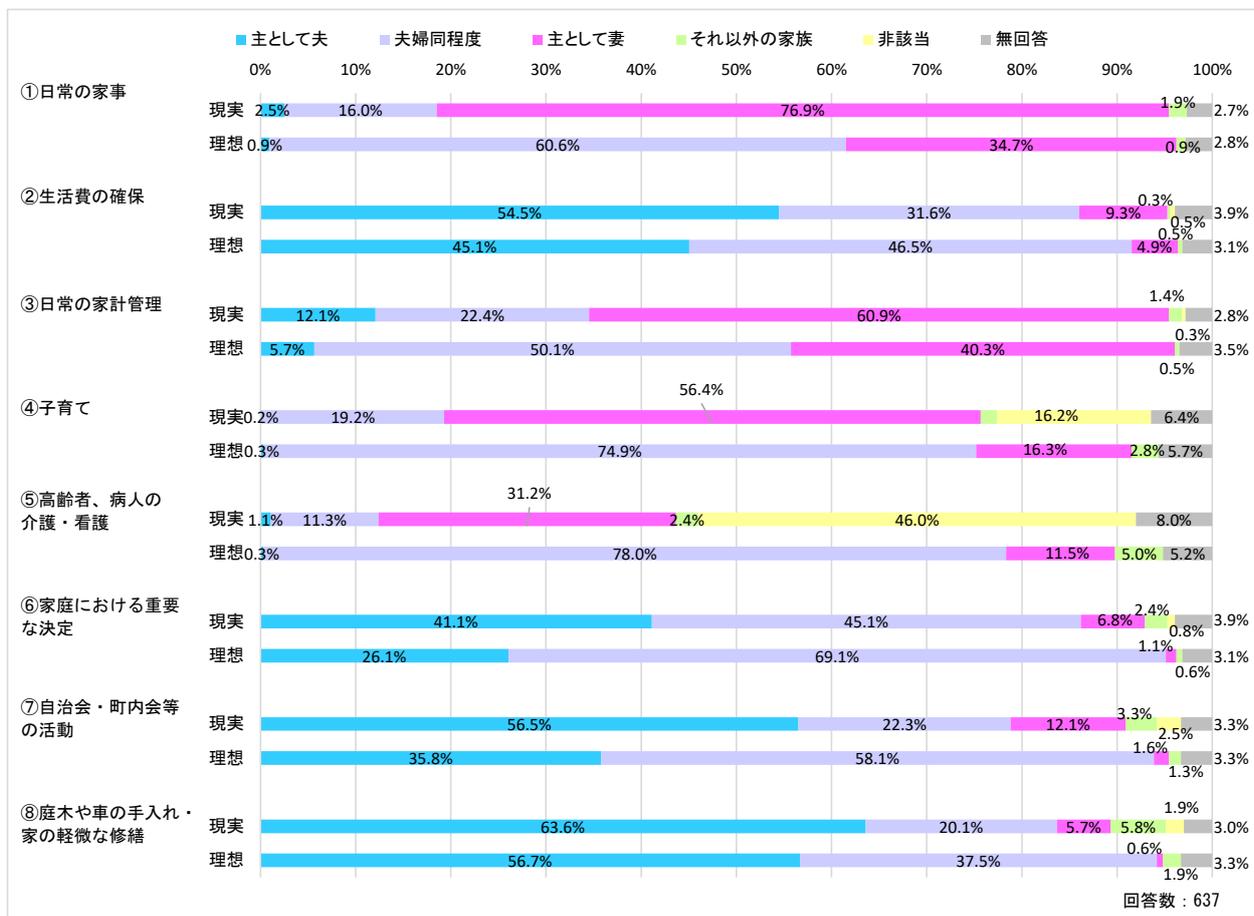
## Ⅱ. 仕事と家庭生活・地域活動の両立について

### 問3・4 あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか。また誰が行うのが望ましいと思いますか。

#### ■現実と理想との比較

現実の役割分担について、「①日常の家事」「③日常の家計管理」「④子育て」は「主として妻」の割合が高く、特に日常の家事は76.9%と高い割合を占めている。「⑦自治会・町内会等の活動」、「⑧庭木や車の手入れ・家の軽微な修繕」といった臨時の家事は「主として夫」の割合が高くなっている。

理想の役割分担について、「①日常の家事」「④子育て」「⑤高齢者、病人の介護・看護」「⑥家庭における重要な決定」は「夫婦同程度」の割合が高くなっている。

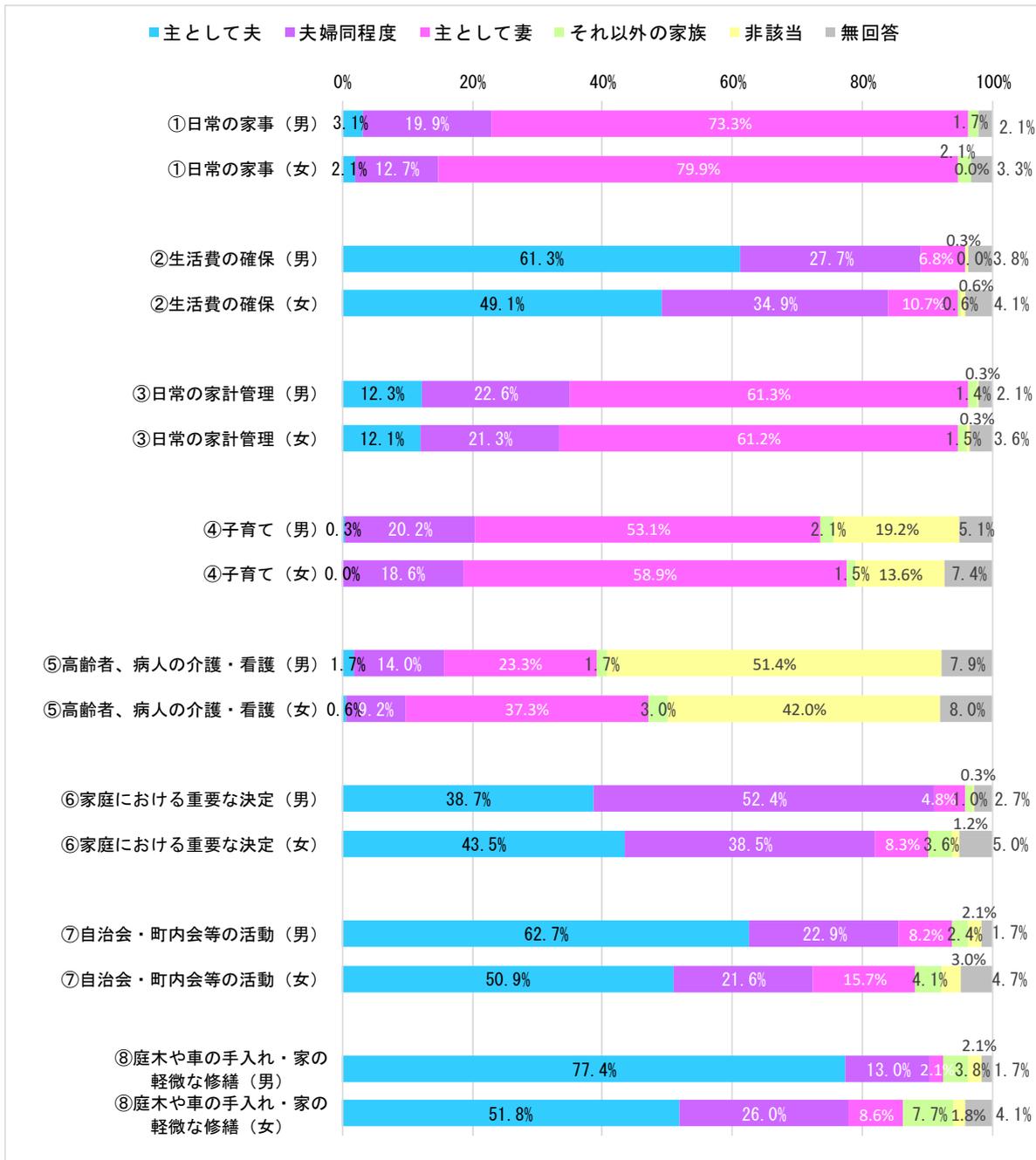


■現実の分担における性別の傾向

「夫婦同程度」の割合が最も高いのは、男女ともに「⑥家庭における重要な決定」となっており、男性は52.4%、女性は38.5%となっている。次いで、男女ともに「生活費の確保」で、男性は27.7%、女性は34.9%となっている。

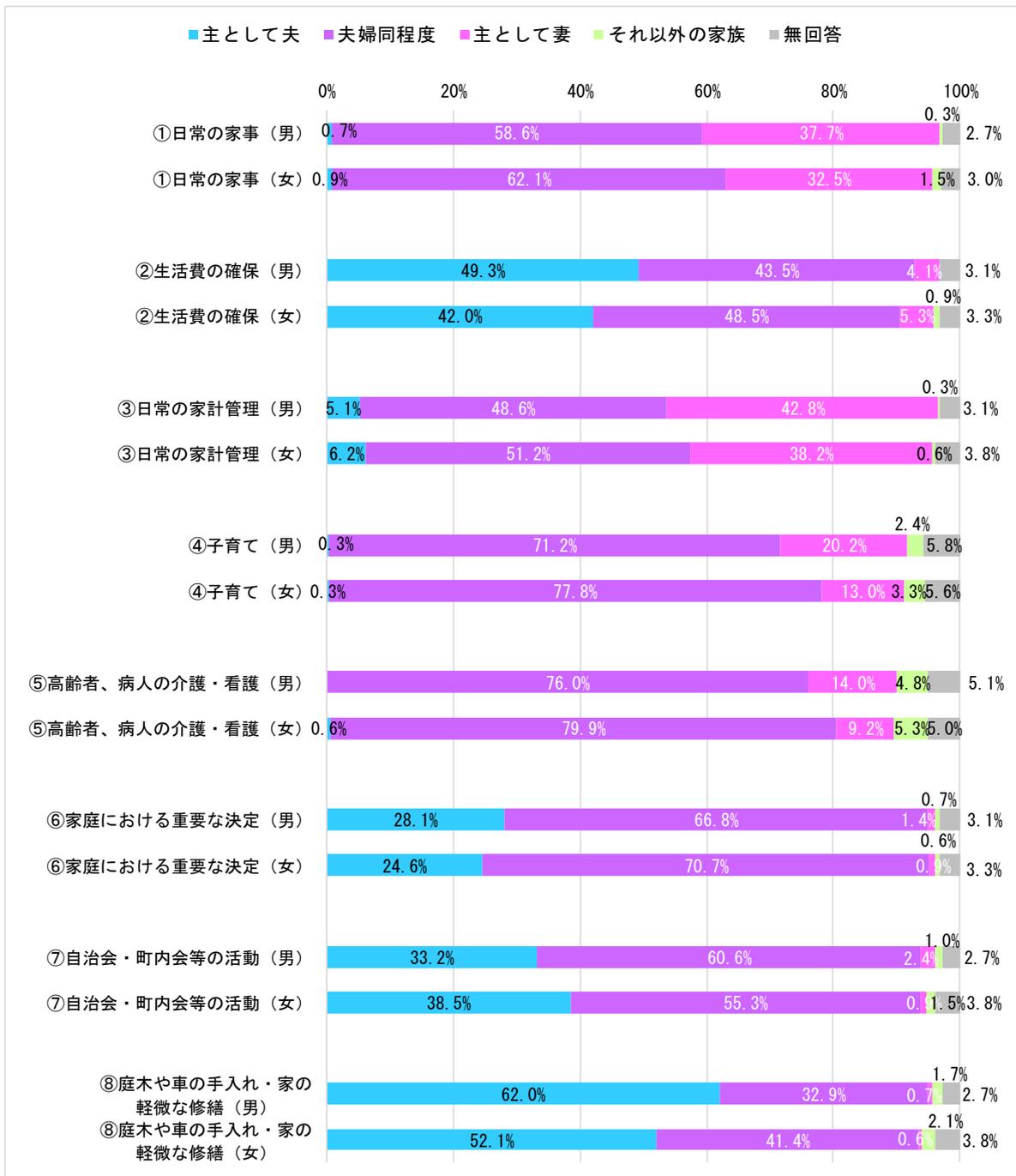
一方で、男女ともに「①日常の家事」「③日常の家計管理」「④子育て」については「主として妻」の割合が最も高くなっている。

男女ともに「非該当」の割合が最も多いのは、「⑤高齢者、病人の介護・看護」となっており、男性が51.4%、女性は42.0%となっている。



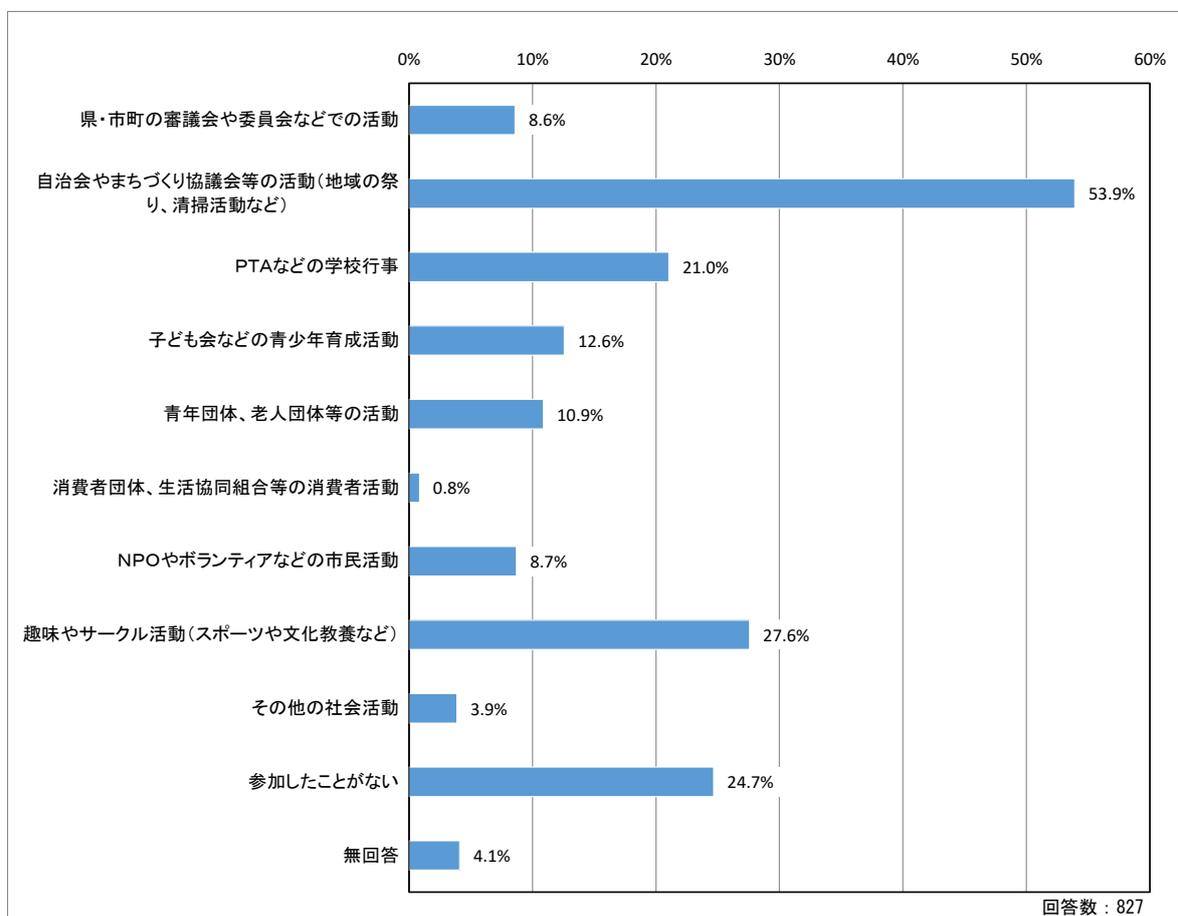
■理想の分担における性別の傾向

「夫婦同程度」の割合が最も高いのは、男女共に「⑤高齢者、病人の介護・看護」で男性は76.0%、女性は79.9%、次いで「④子育て」で男性は71.2%、女性は77.8%となっている。



**問5 あなたは、この3年間次のような活動に参加したことがありますか。**

参加が多い活動は、「自治会やまちづくり協議会等の活動（地域の祭り、清掃活動など）」で 53.9%、次いで「趣味やサークル活動（スポーツや文化教養など）」27.6%、「参加したことがない」24.7%となっている。過去3年間で地域活動への参加がないのは全体の約4分の1に上る。

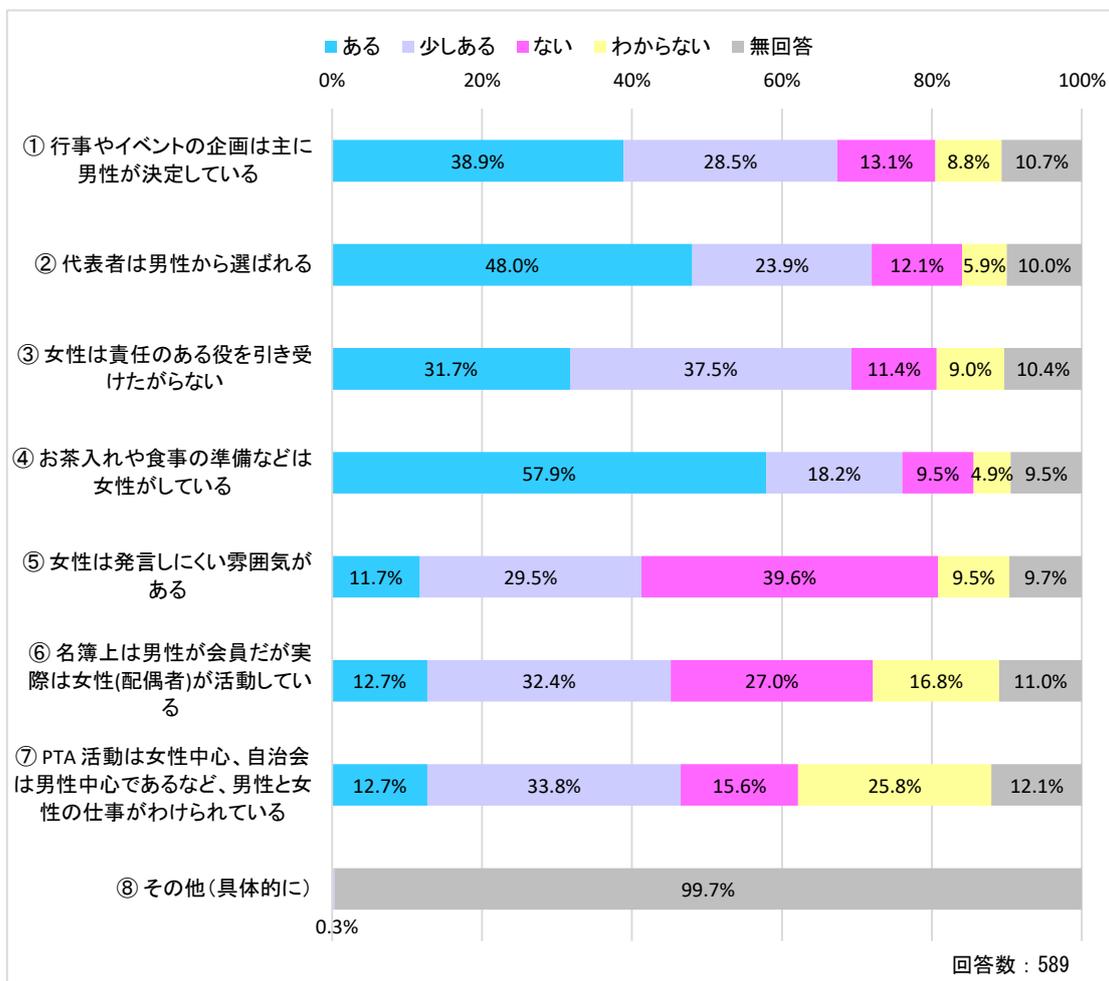


年代別で見ると、50歳代以上では「自治会やまちづくり協議会等の活動への参加」、30歳代、40歳代では「PTAなどの学校行事の参加」の割合が最も高くなっている。20歳代では「参加したことがない」の割合が約6割となっている。

この3年間に参加したことがある活動	県・市町の審議会や委員会などでの活動	自治会やまちづくり協議会等の活動(地域の祭り、清掃活動など)	PTAなどの学校行事	子ども会などの青少年育成活動	青年団体、老人団体等の活動	消費者団体、生活協同組合等の消費者活動
20歳代	0.0%	18.5%	3.7%	1.9%	3.7%	1.9%
30歳代	3.8%	34.6%	35.9%	17.9%	3.8%	0.0%
40歳代	3.9%	57.8%	58.4%	27.3%	4.5%	1.3%
50歳代	8.0%	60.9%	16.7%	11.5%	8.6%	0.6%
60歳代	14.5%	63.1%	7.3%	7.3%	10.6%	0.6%
70歳代以上	11.5%	53.8%	4.9%	6.0%	23.6%	0.5%
この3年間に参加したことがある活動	NPOやボランティアなどの市民活動	趣味やサークル活動(スポーツや文化教養など)	その他の社会活動	参加したことがない	無回答	
20歳代	9.3%	18.5%	0.0%	59.3%	3.7%	
30歳代	1.3%	20.5%	1.3%	33.3%	6.4%	
40歳代	10.4%	26.0%	1.3%	16.9%	2.6%	
50歳代	4.0%	19.0%	2.9%	25.3%	2.3%	
60歳代	11.2%	36.9%	6.7%	19.0%	3.4%	
70歳代以上	12.6%	33.0%	6.6%	22.0%	7.1%	

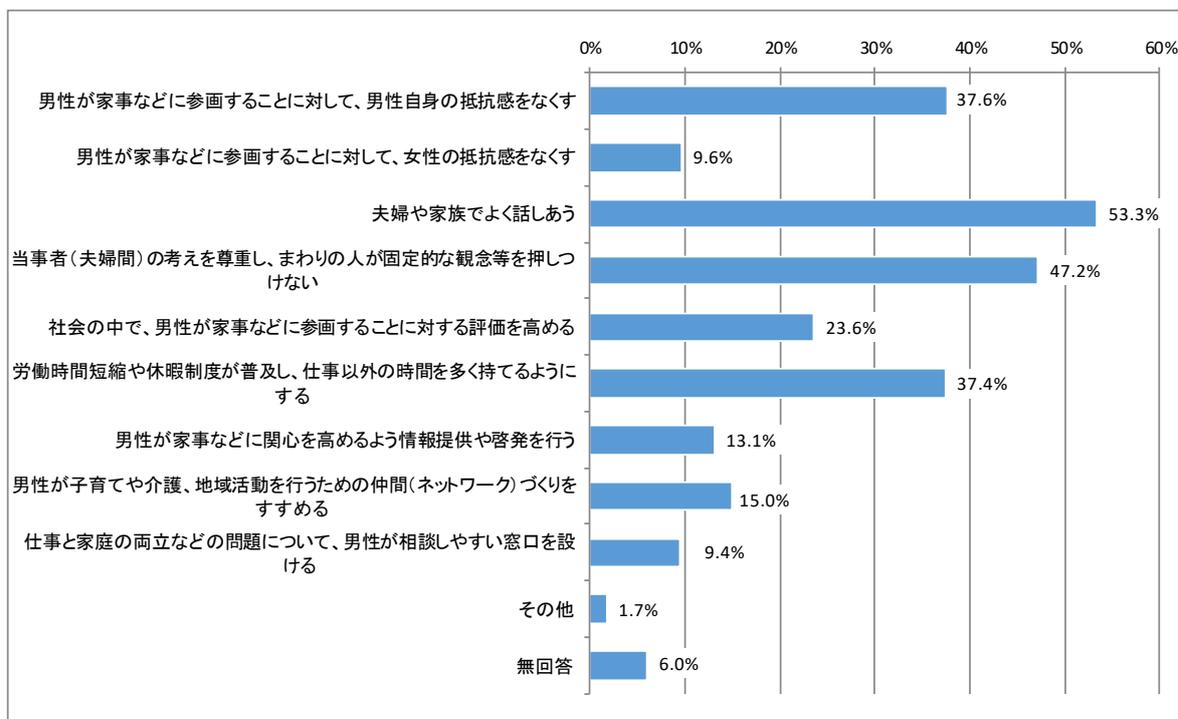
**問6 あなたが参加している（したことがある）活動では、次のようなことがありましたか。**

参加している（したことがある）活動で「ある」（「ある」と「すこしある」の合計）の割合が最も高いのは「お茶入れや食事の準備などは女性がしている」で76.1%、次いで「代表者は男性から選ばれる」が71.9%となっている。



**問7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参画していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。**

重要度の割合が最も高いのは「夫婦や家族でよく話し合う」で 53.3%、次いで、「当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等押し付けない」が 47.2%、「男性が家事などに参画することに対して、男性自身の抵抗感をなくす」が 37.6%となっている。

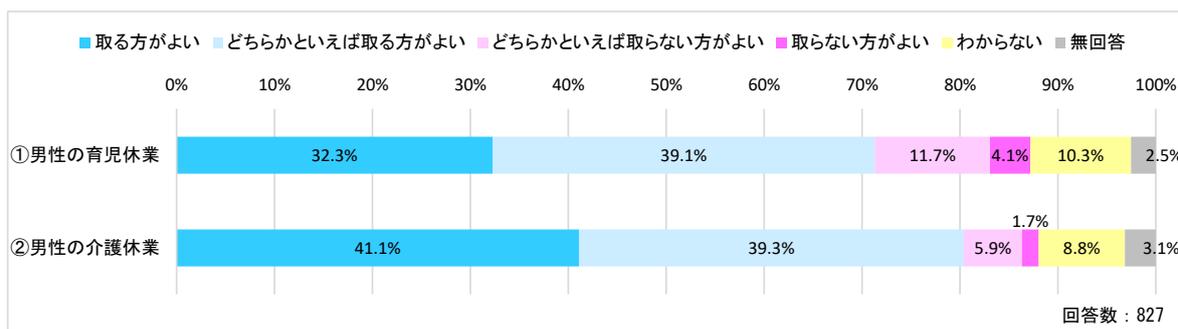


**問8 あなたは、男性が「育児休業・介護休業制度」を利用することについてどう考えますか。**

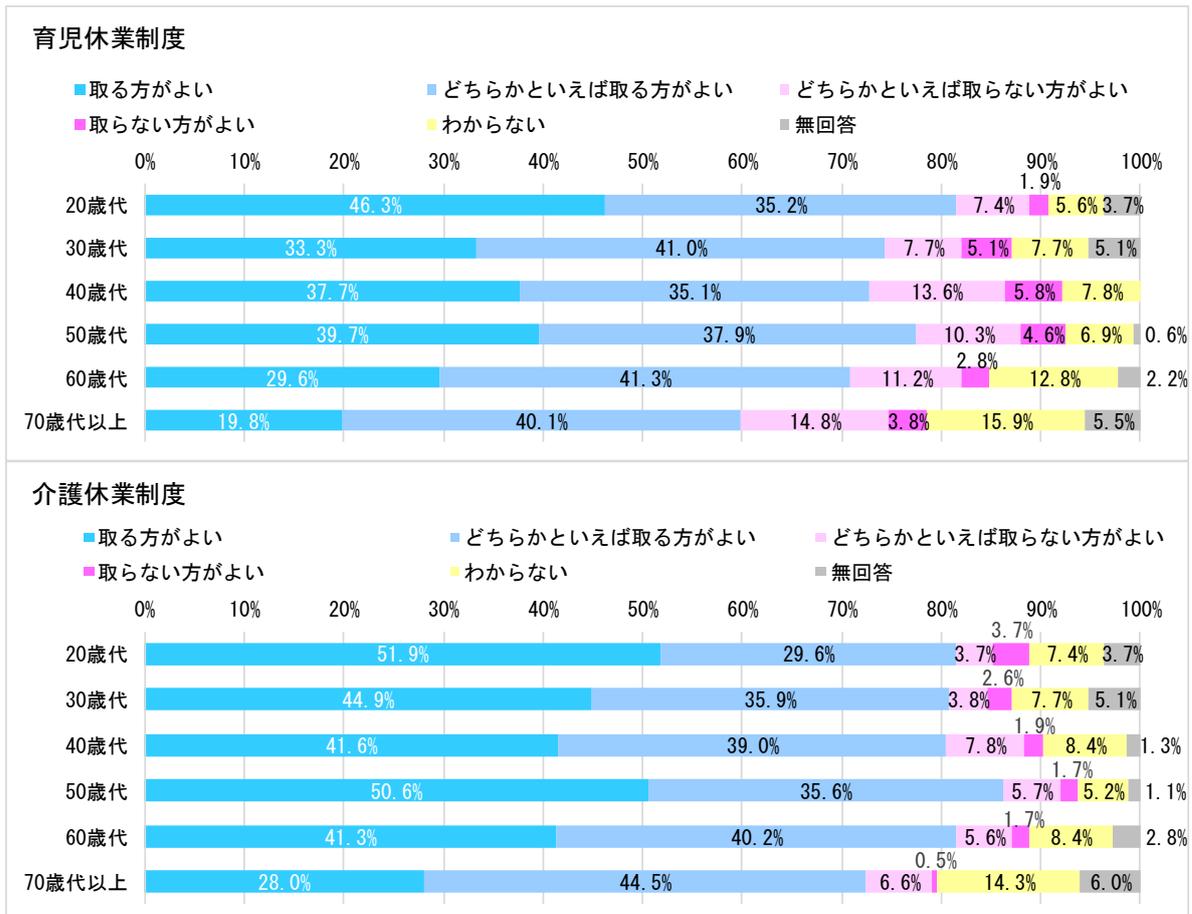
育児休業は「どちらかといえば取る方がよい」が 39.1%で最も多く、介護休業は「取る方がよい」が 41.1%を占めている。

育児休業は、「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせると 71.4%、「どちらかといえば取らない方がよい」「取らない方がよい」を合わせると 15.8%となっている。介護休業は、「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせると 80.4%、「どちらかといえば取らない方がよい」「取らない方がよい」を合わせると 7.6%となっている。

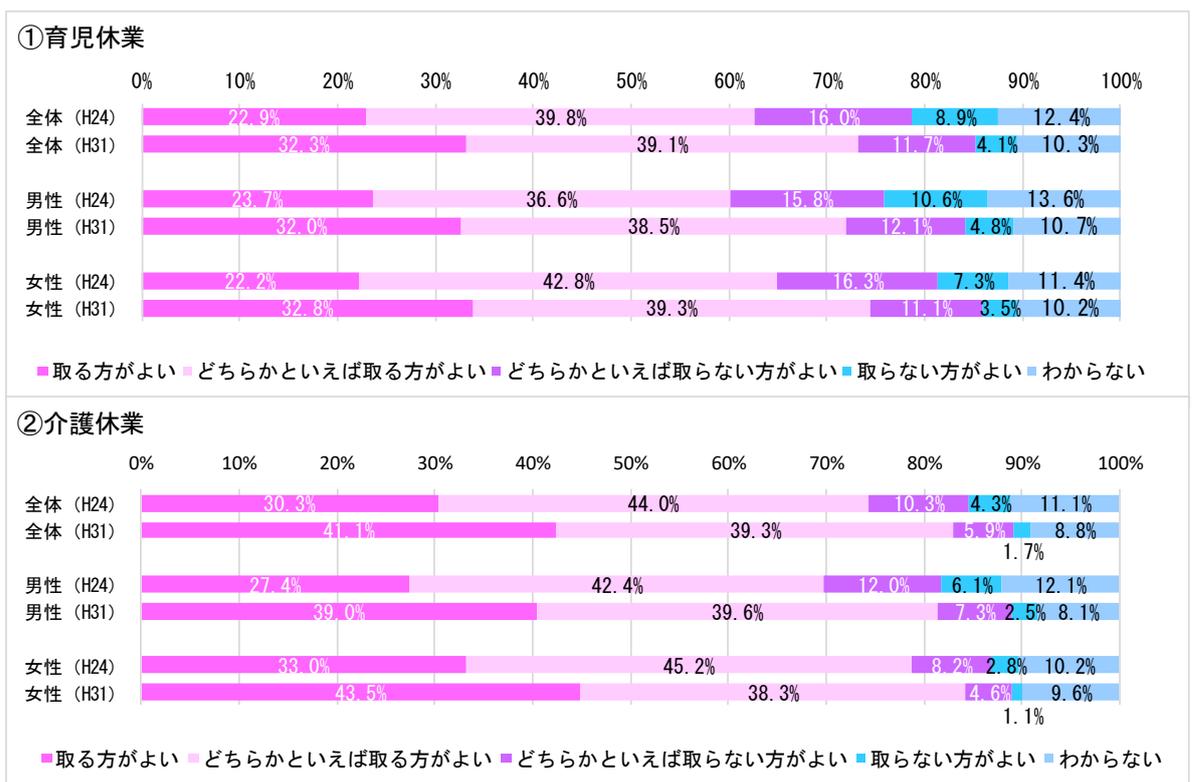
育児と介護を比較すると、介護のほうが男性も休業を「取る方がよい」と考えられる傾向にある。



年代別にみると、育児休業と介護休業ともに「取る方がよい」「どちらかといえば取る方がよい」を合わせると、割合が最も高いのは、育児休業では20歳代、介護休業では50歳代となっている。



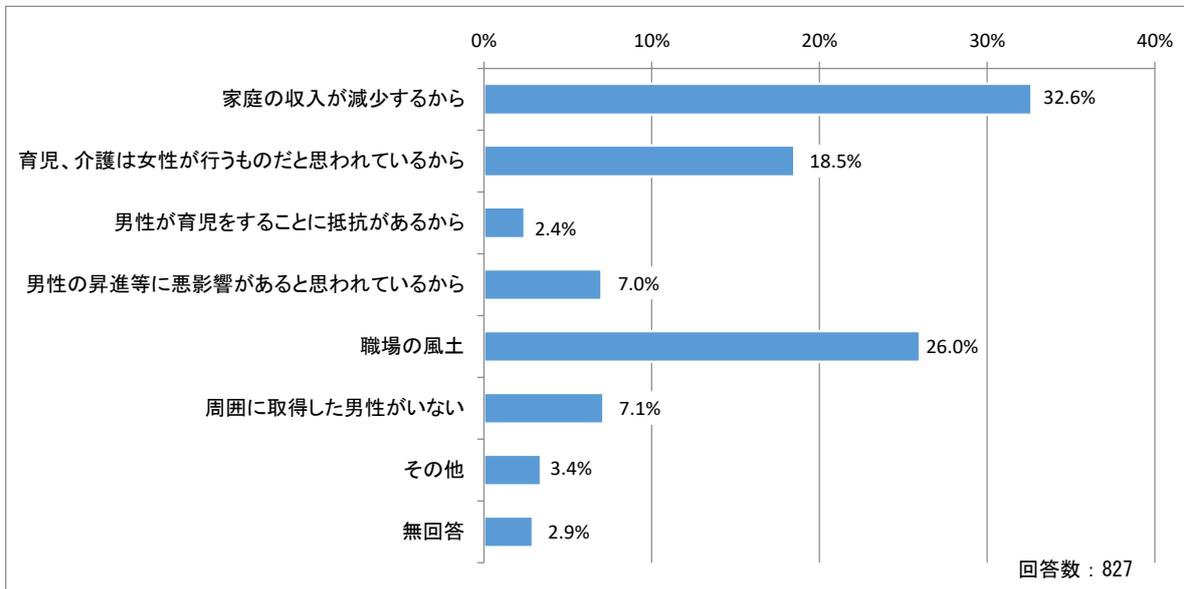
また、前回と比較して、全体、男女別ともに「取る方がよい」の割合が増加傾向にある。



**問9 男性の「育児休業・介護休業制度」取得が進まない最も大きな理由は何だと考えますか。**

割合が最も高いは「家庭の収入が減少するから」で32.6%、次いで「職場の風土」が26.0%、「育児、介護は女性が行うものだと思われるから」が18.5%となっている。

「男性が育児をすることに抵抗があるから」は2.4%と低くなっている。

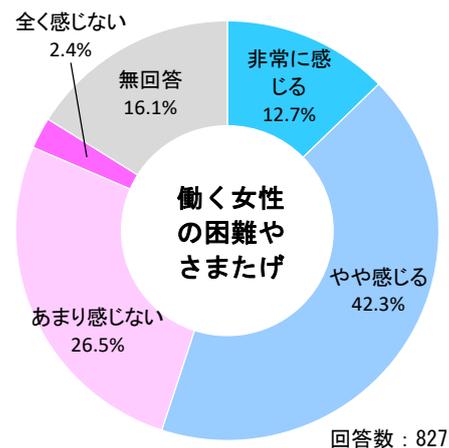


**Ⅲ. 女性の仕事・活躍推進について**

**問10(1) 今の社会全体からみて、女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることがあると感じますか。**

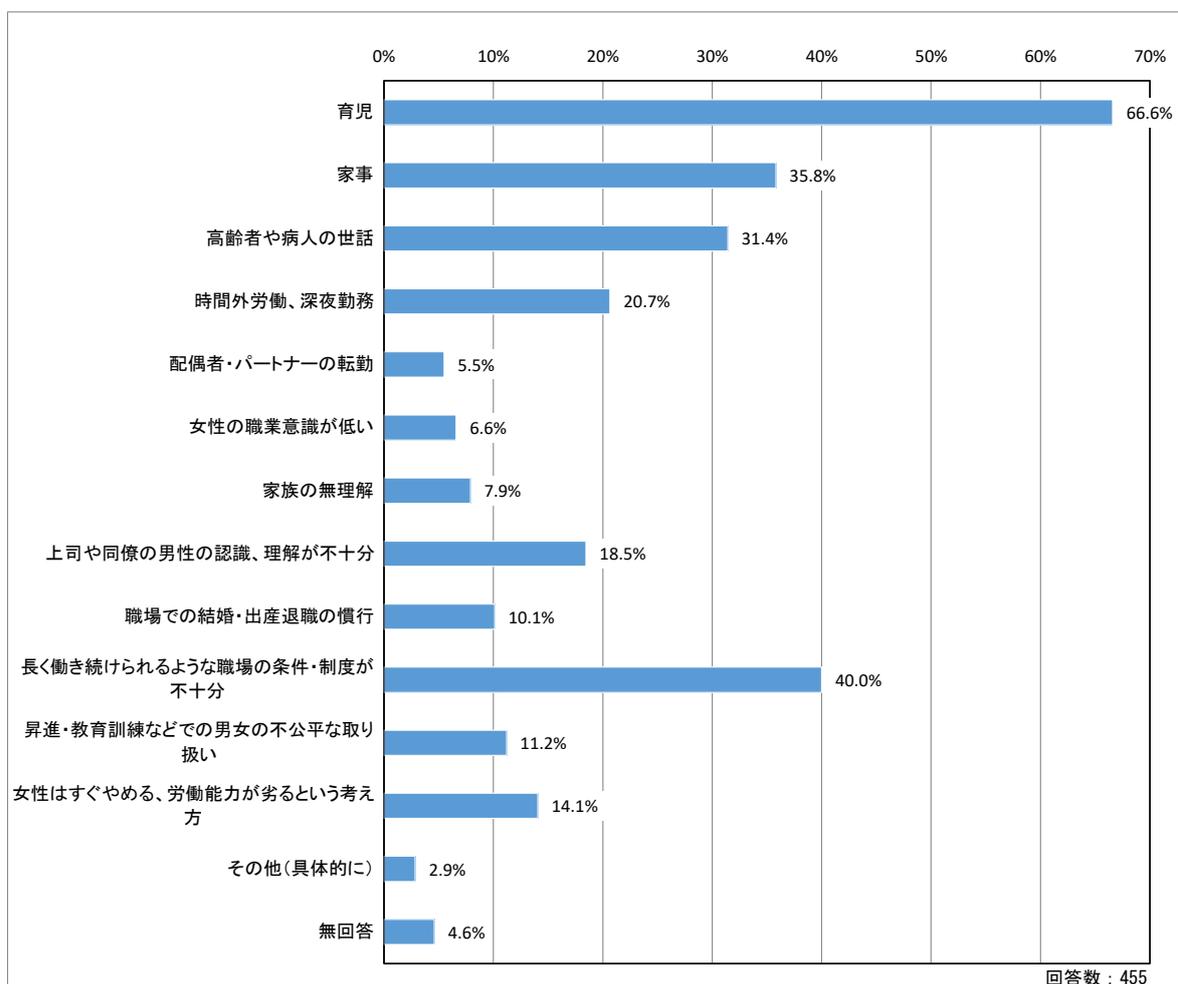
割合が最も高いのは「やや感じる」で42.3%、次いで「あまり感じない」が26.5%となっている。「全く感じない」は2.4%と割合が低くなっている。

「非常に感じる」「やや感じる」を合わせると55%に上ることから、女性が働き続けることに対して困難や妨げになっていることがあると感じている人が多いことがうかがえる。



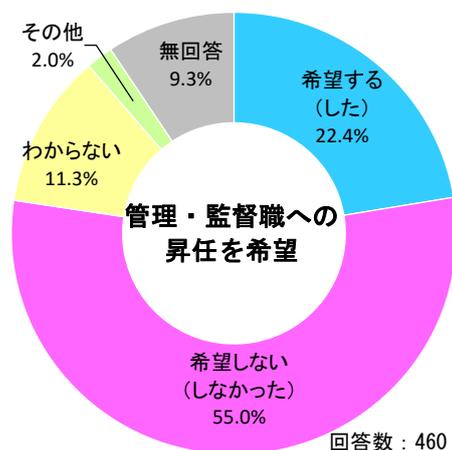
**問 10(2) 女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることは、どのようなことだと思いますか。**

割合が最も高いのは、「育児」で 66.6%、次いで「長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分」が 40.0%、「家事」が 35.8%となっている。



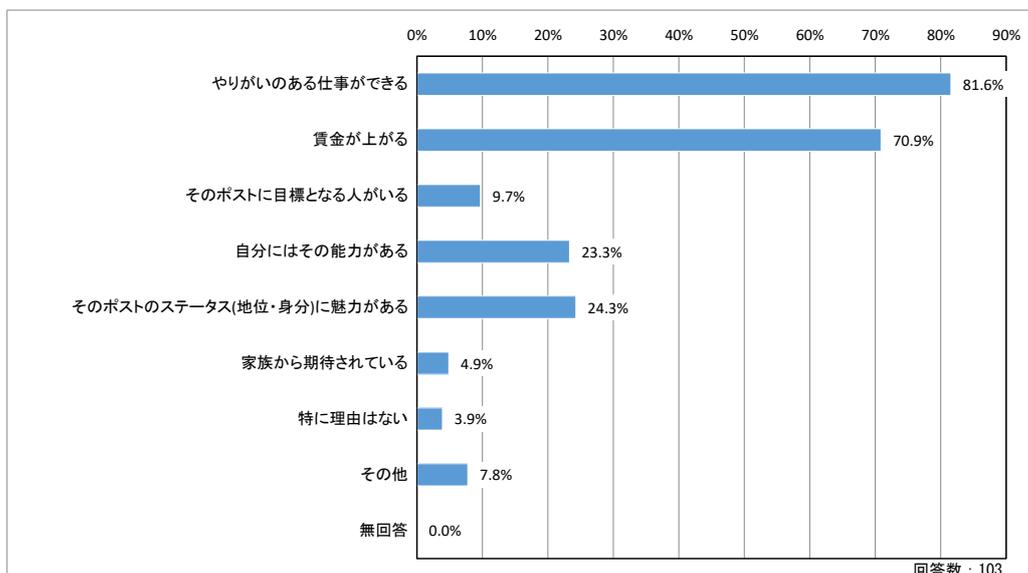
**問 11(1) 女性が活躍する指標の一つに、職場環境における女性の管理職登用がありますが、あなたは管理・監督職への昇任を希望しますか。なお、現在、管理・監督職の方は、昇任を希望しましたか。**

割合が最も高いのは「希望しない(しなかった)」で 55.0%となっており、約半数が管理・監督職への昇任を希望していない。続いて「希望する(した)」は 22.4%、「わからない」11.3%となっている。



### 問 11(2) 希望する(した)理由を教えてください。

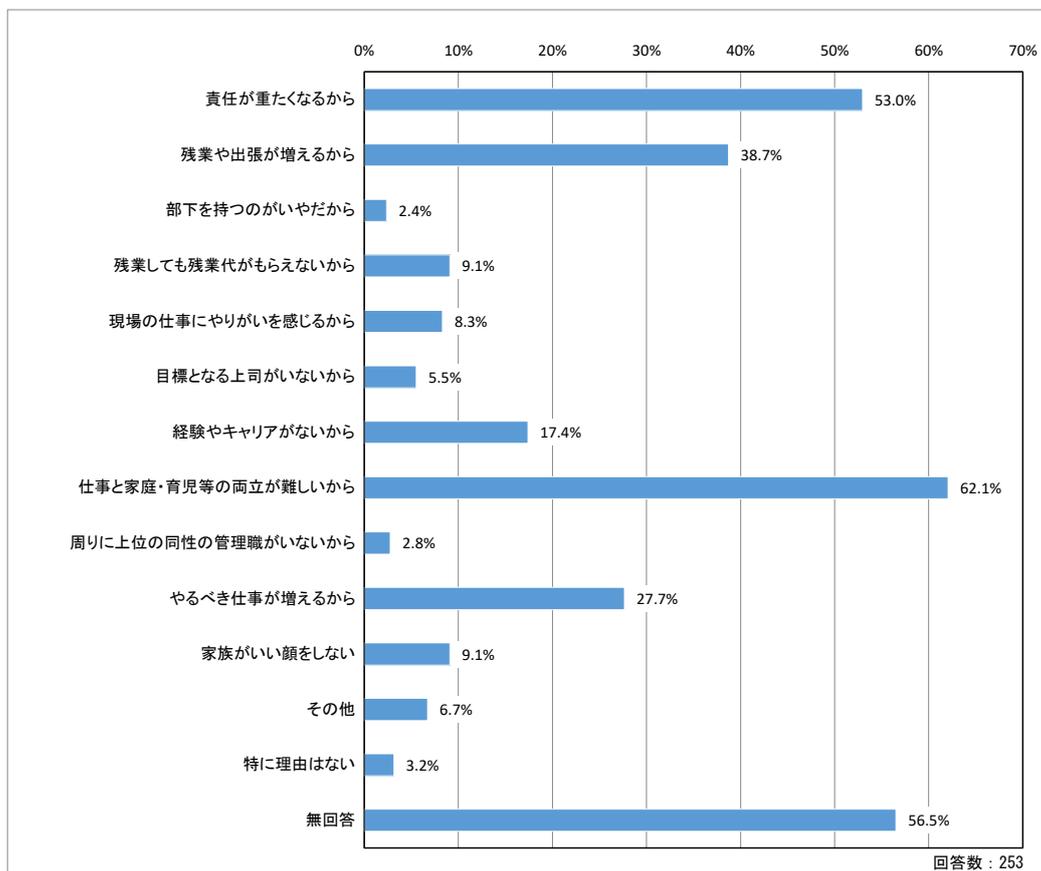
希望する(した)理由で最も多い回答は、「やりがいのある仕事ができる」で 81.6%、次いで「賃金上がる」が 70.9%、「そのポストのステータス(地位・身分)に魅力がある」が 24.3%となっている。



### 問 11(3) 希望しない(しなかった)理由を教えてください。

希望しない(しなかった)理由で割合が最も高いのは「仕事と家庭・育児等の両立が難しいから」62.1%、次いで「責任が重たくなるから」53.0%、「残業や出張が増えるから」38.7%となっている。

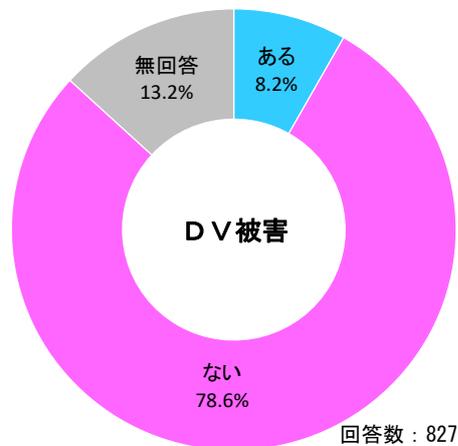
また、「周りに上位の同性の管理職がないから」は 2.8%、「部下を持つのがいやだから」は 2.4%と低い割合になっている。



#### IV. 性と人権について

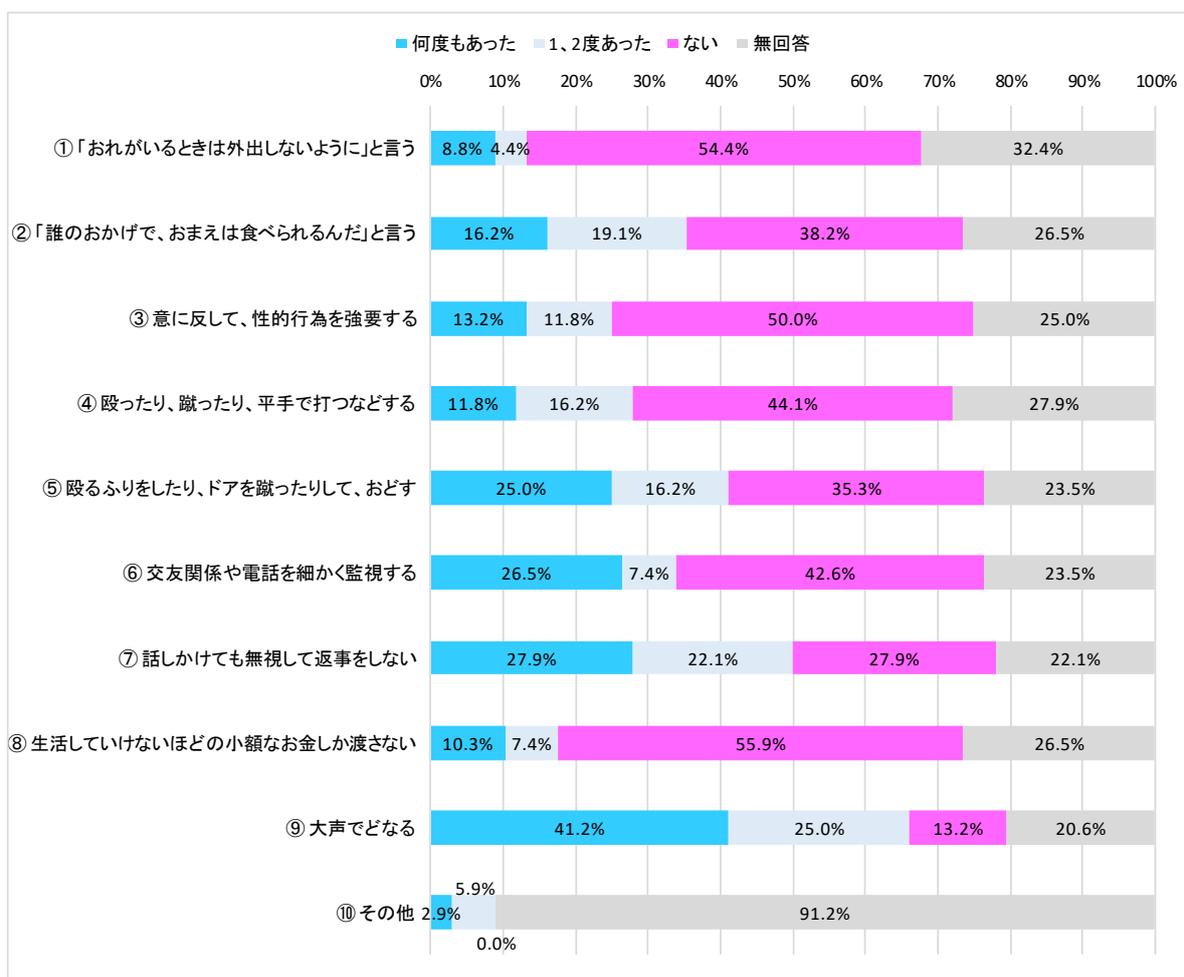
##### 問 12(1) あなたはドメスティック・バイオレンス(DV)被害にあわれたことがありますか。

最も多い回答は「ない」の78.6%、次いで「ある」が8.2%となっている。



##### 問 12(2) あなたが受けたDVはどのような内容ですか。

受けたDV（「1、2度あった」と「何度もあった」をあわせて）で最も多い回答は「大声でどなる」で66.2%、次いで「話しかけても無視して返事をしない」が50.0%、「殴るふりをしたり、ドアを蹴ったりして、おどす」が41.2%となっている。

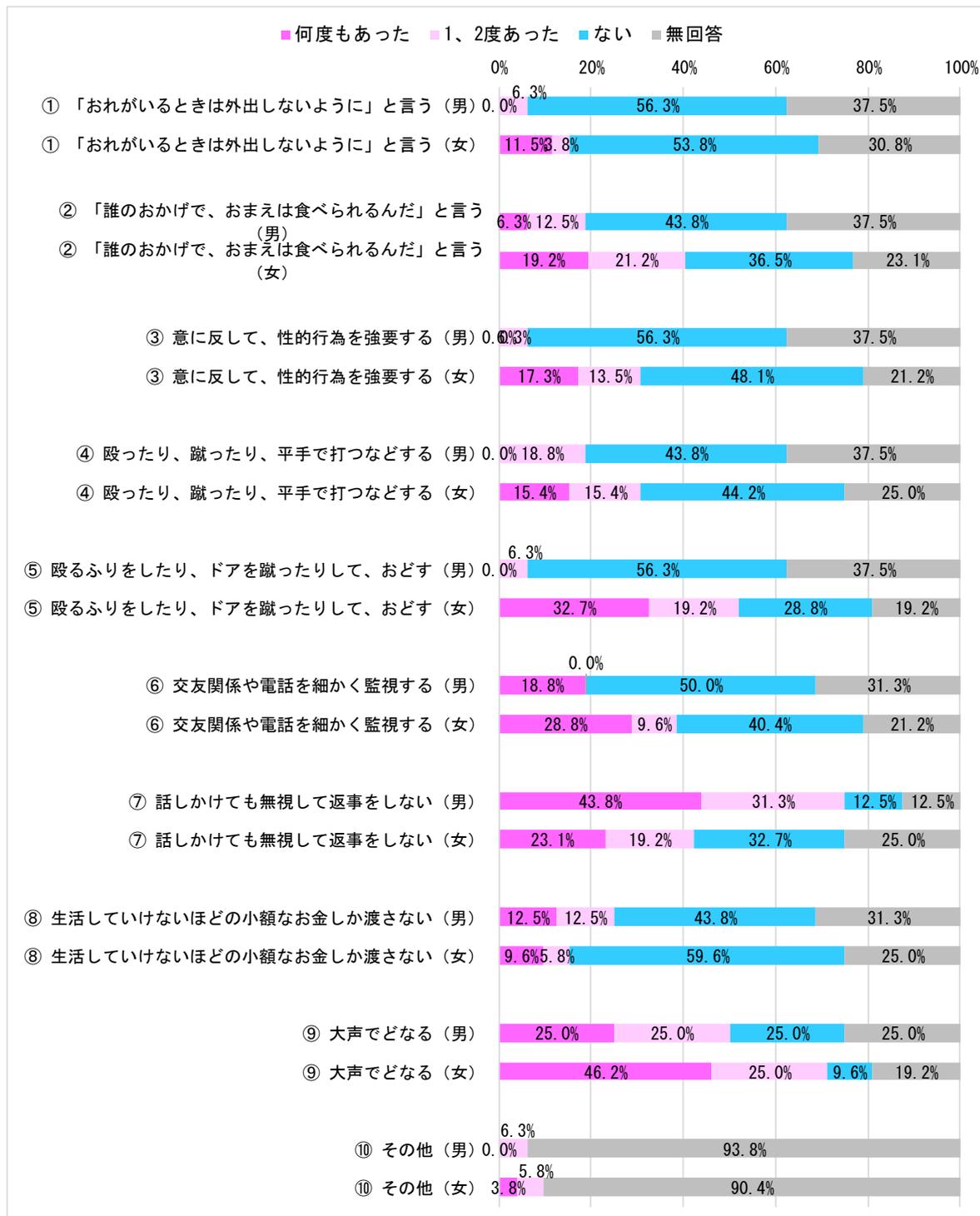


■性別の比較

経験した\*割合が最も高いものは、男性は「話しかけても無視して返事をしない」で75.1%、女性は「大声でどなる」で71.2%となっている。

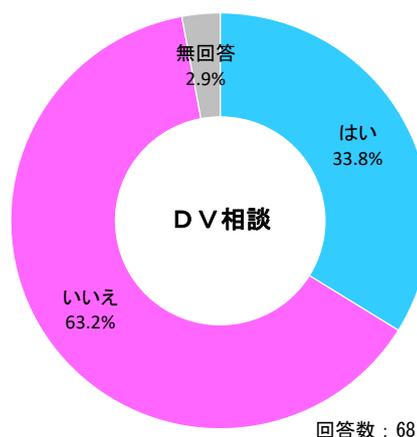
男性の18.8%、女性の30.8%が「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」の身体的な暴力を受けた経験があると回答している。

※何度もあった、1、2度あった、を合わせた数



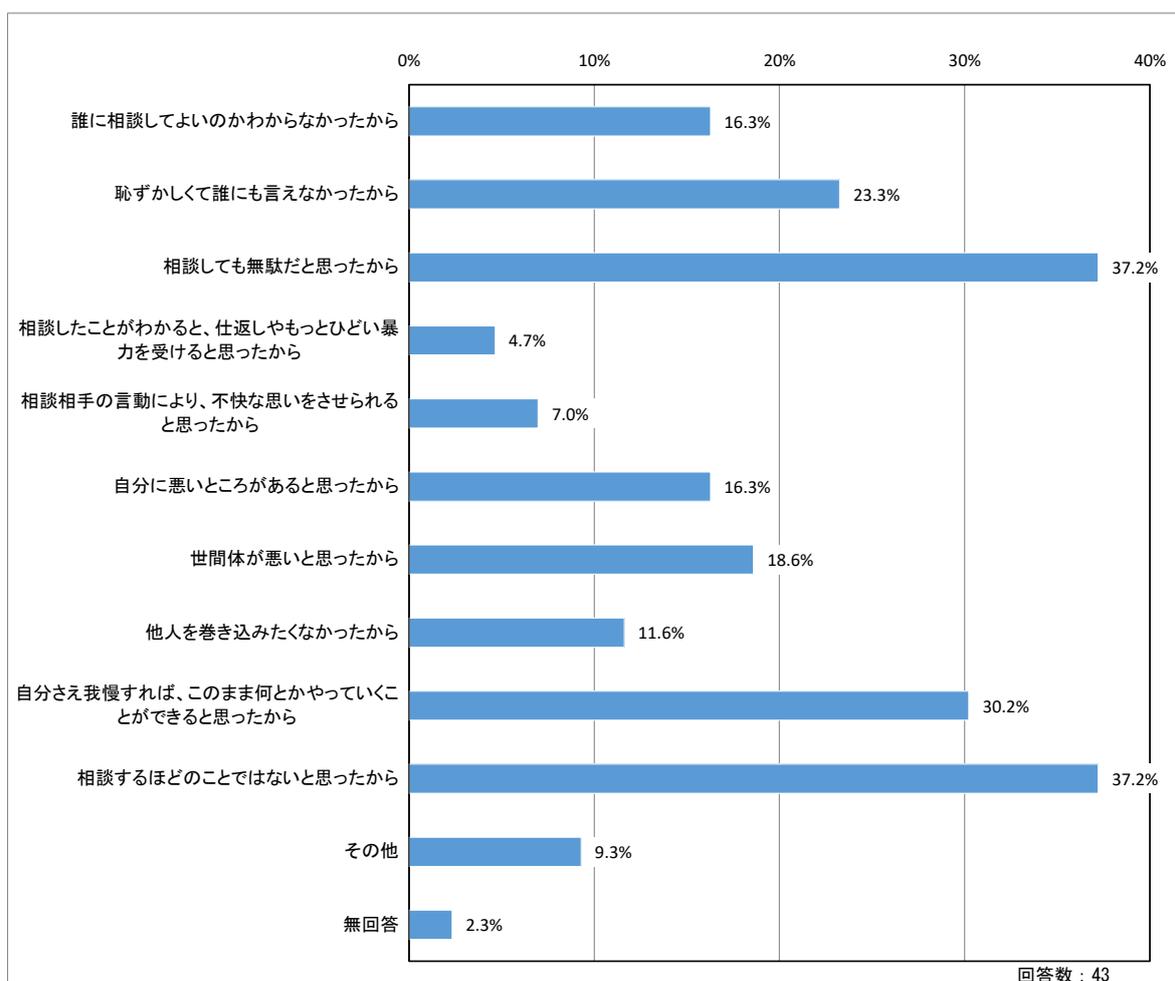
**問 12(3) あなたがDVを受けたとき、どこかに相談しましたか。**

被害をうけた人のうち、相談しなかったケースが多く、63.2%となっている。どこかに相談したと回答したのは、33.8%となっている



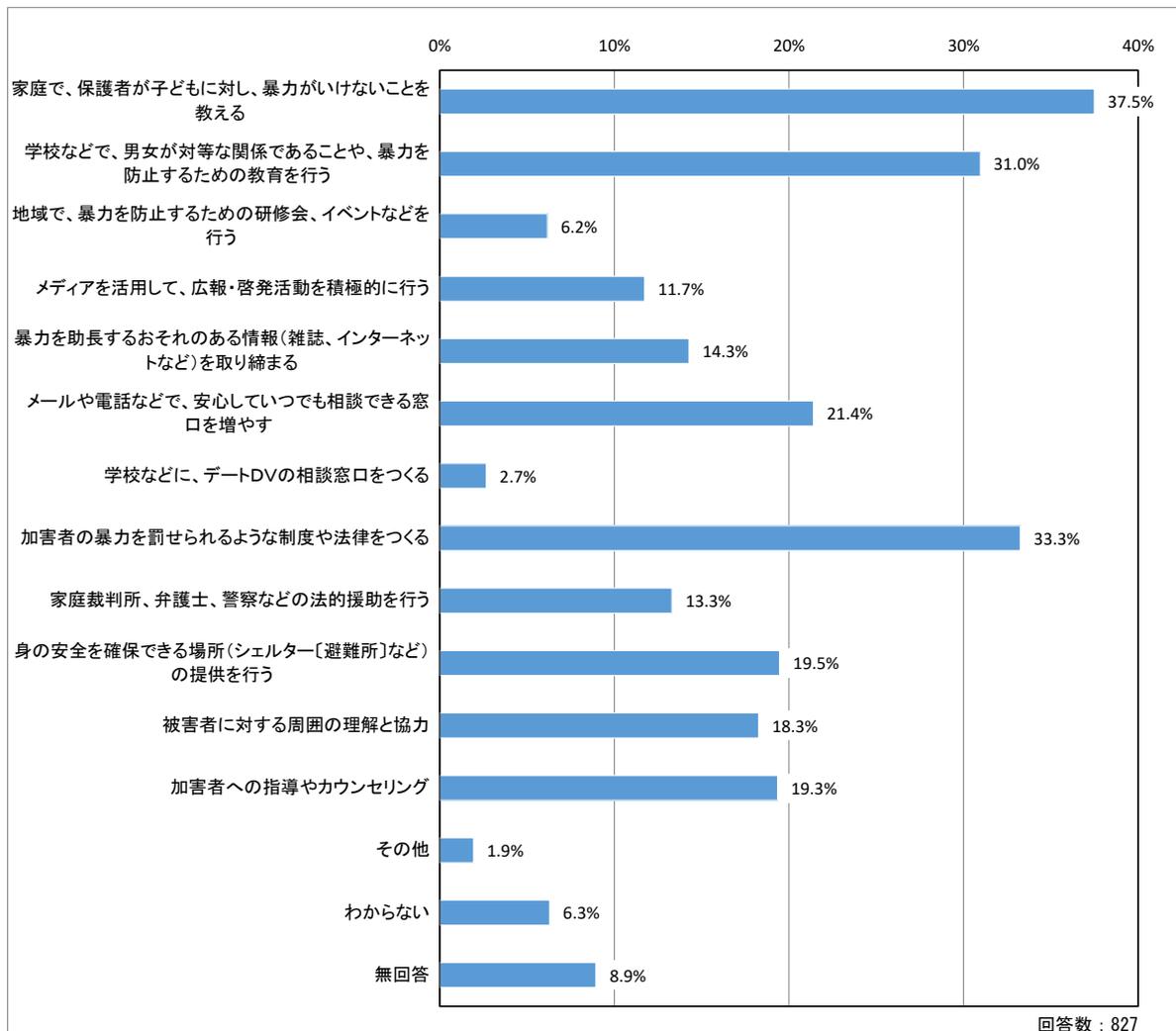
**問 12(4) 相談しなかった理由は何ですか。**

相談しなかった理由として最も多かったのは「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことでもないと思ったから」で37.2%、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が30.2%、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が23.3%と続いている。



**問 13 あなたは、夫婦または恋人における暴力を防止するためには、どうしたらよいと思いますか。**

割合が最も高いのは、「家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える」で 37.5%、次いで、「加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる」が 33.3%、「学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う」が 31.0%となっている。

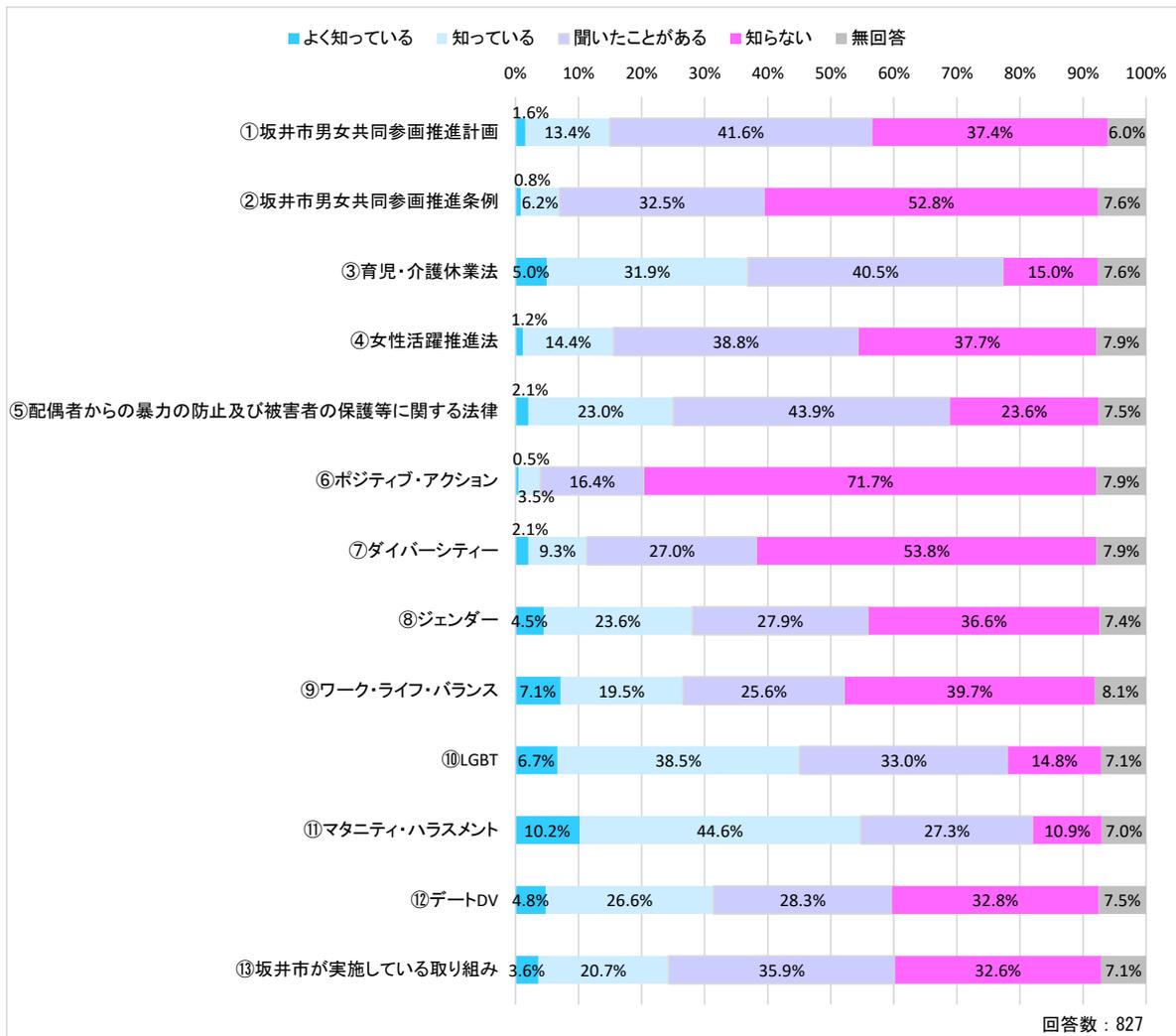


## V. 男女共同参画社会の実現について

### 問 14 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。

「よく知っている」、「知っている」を合わせた回答で割合が最も高いのは、「マタニティ・ハラスメント」で54.8%、次いで「LGBT」が45.2%、「育児・介護休業法」36.9%となっている。

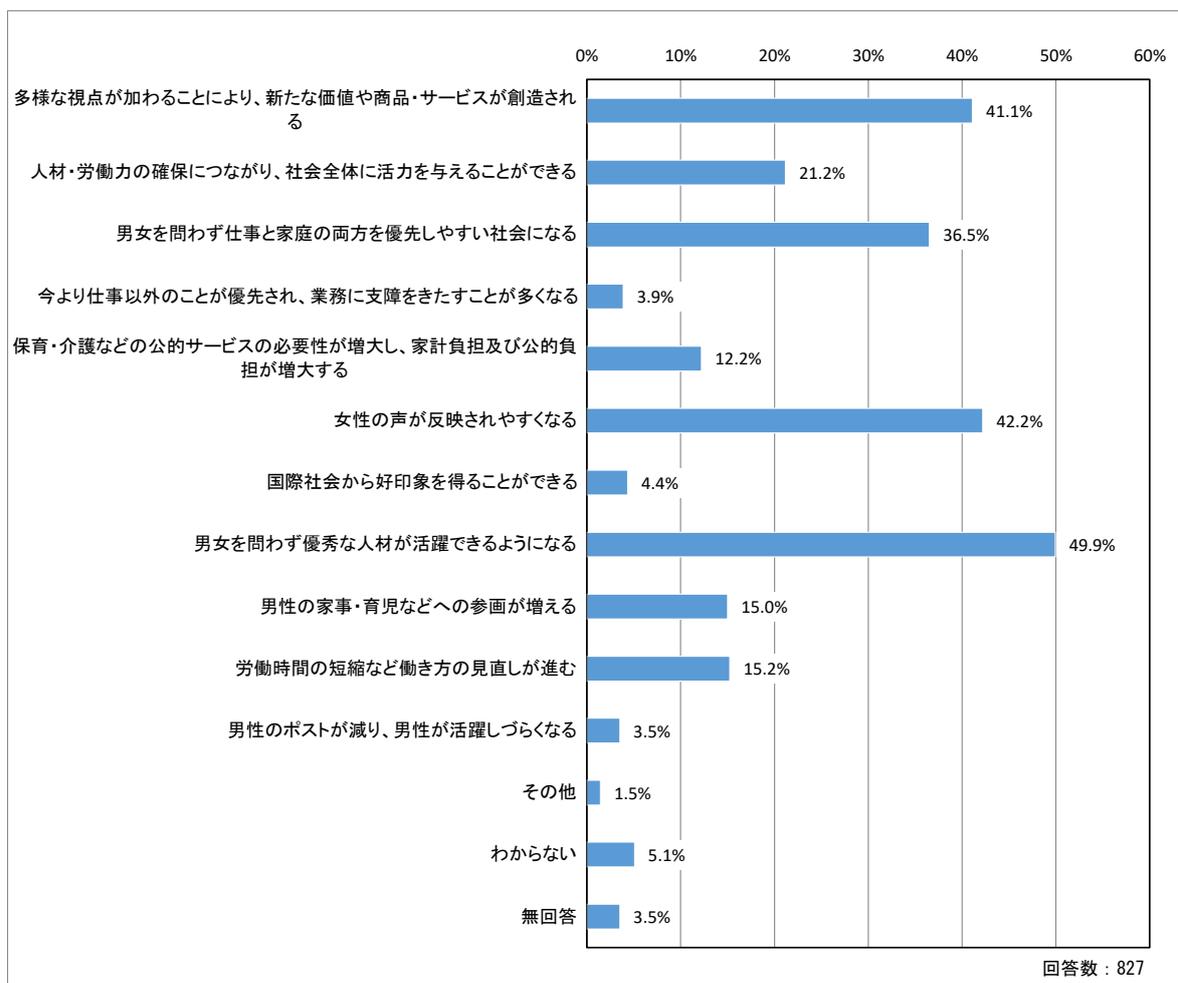
「知らない」という回答で最も高いのは「ポジティブ・アクション」で71.7%、次いで「ダイバーシティ」が53.8%、「坂井市男女共同参画推進条例」が52.8%となっている。



**問 15 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。**

割合が最も高いのは「男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる」で49.9%、次いで「女性の声が反映されやすくなる」が42.2%、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が41.1%となっている。

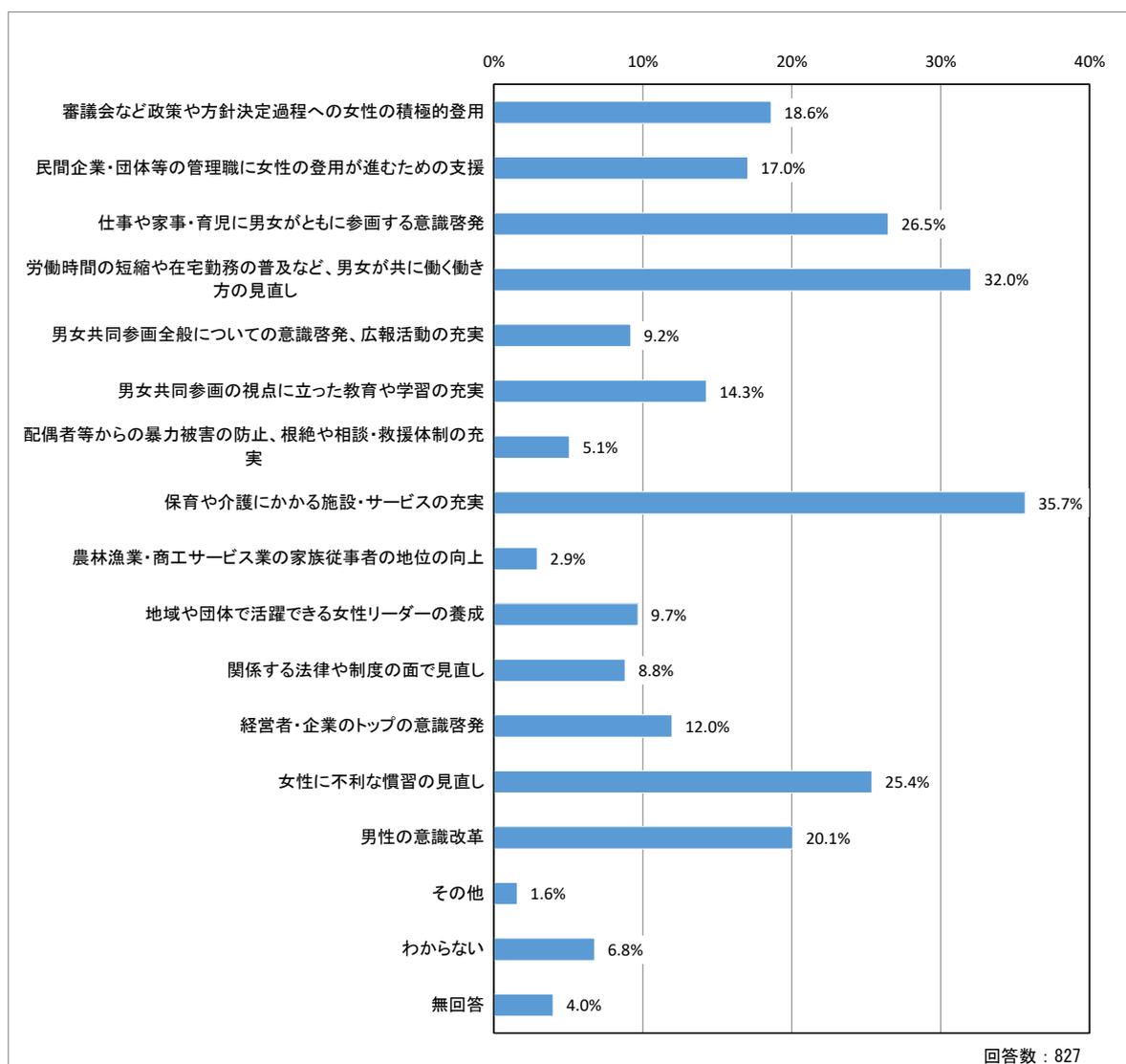
一方で、割合が低いのは、「国際社会から好印象を得ることができる」で4.4%、「今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる」が3.9%、「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」となっている。



**問 16 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。**

割合が最も高いのは、「保育や介護にかかる施設・サービスの充実」で 35.7%、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女が共に働く働き方の見直し」で 32.0%、「仕事や家事・育児に男女がともに参画する意識啓発」が 26.5%、「女性に不利な慣習の見直し」が 25.4%、「男性の意識改革」が 20.1%となっている。

一方で、「地域や団体に活躍できる女性リーダーの養成」9.7%、「男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実」9.2%、「関係する法律や制度の面で見直し」8.8%、「配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実」5.1%、「農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上」2.9%となっている。



問 17 男女平等や男女共同参画、女性活躍などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望  
(自由記述)

内容	全体	女性	男性	不明
性別役割分担意識の肯定(男女平等に抵抗がある、区別は必要、生物学的差を考慮すべき、男・女らしさは必要)	5	3	2	0
意識啓発の必要性(啓蒙・広報・PR)	5	2	3	0
男女というより人間として尊重すること、多様性を認めること、協力すること、自立することが重要	12	7	5	0
ワークライフバランス(労働時間・結婚・出産・育児)	3	1	2	0
本調査に対する疑問・不満	14	8	6	0
坂井市への要望	9	7	2	0
子どもへの教育の必要性(学校・家庭)	4	3	1	0
情報提供の必要性	4	2	2	0
少子化、結婚	2	0	2	0
女性が優遇されている (女性自身が悪い、甘えている、すでに優遇されている、男性のほうがつらい)	8	2	6	0
男女共同参画は既にある程度達成されている。現状で満足している。	2	1	1	0
男女共同参画は実現が難しい (そんな余裕はない、厳しい点が多い、あきらめている)	7	6	1	0
男女共同参画は重要なことではない (差別などない、他にすることがある、それぞれの考えがある)	4	0	4	0
本調査への期待(応援・感謝等)	5	2	3	0
家庭や地域の変化、意識の変化	10	8	1	1
企業毎に異なる対応、企業への意識づけ、企業努力の必要性	18	11	7	0
雇用の問題	1	1	0	0
自分には関係ない(わからない)	2	1	1	0
意思決定への女性の参画の必要性	7	5	2	0
DV、セクハラ、性犯罪	2	0	2	0
法制度改正の必要性	4	2	2	0
育児サービスの必要性	7	4	3	0
その他	25	9	15	1

## 5. 調査票

# 男女共同参画に関する市民意識調査

## 調査ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市行政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

坂井市では、男女が互いにその人権を尊重し、責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現に向けて、「坂井市男女共同参画推進計画」を策定し、様々な施策を実施しています。

平成 28 年 4 月に女性活躍推進法が施行され、今回、第 2 次の推進計画を策定するにあたって、男女共同参画に関する皆様の声やご意見をお伺いし、今後の施策に反映させることを目的に、本調査を実施いたします。

この調査は、市内にお住まいの 20 歳以上の方の中から、無作為に抽出された 2,400 名の方に、ご協力をお願いしています。調査票にご記入いただいた事項につきましては、すべて統計的に処理、分析を行い、その内容を公表することはありますが、個人の回答がそのまま発表されることはなく、またこの調査の目的以外に使用することは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐縮でございますが、調査の趣旨をご理解賜り、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 31 年 4 月

坂井市長 坂本 憲 男

### ◆ご記入にあたってのお願い◆

1. この調査は、あなた（宛名のご本人）ご自身のお考えでご記入ください。
2. ご記入は、鉛筆または黒・青のボールペンでお願いします。
3. ご回答は、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。
4. 設問によっては、○をつける個数が決められていたり、回答していただく方が限られていたりするものがあります。  
矢印やことわり書きに従ってご記入ください。
5. 「その他」と回答した場合には、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入後は、5月17日（金）までに同封の返信用封筒（切手不要）に入れてご返送ください。

【問い合わせ先】 坂井市役所総合政策部まちづくり推進課女性活躍推進室

〒919-0592 坂井市坂井町下新庄 1-1

TEL : 50-3018 FAX : 66-4837 E-mail : [machizukuri@city.fukui-sakai.lg.jp](mailto:machizukuri@city.fukui-sakai.lg.jp)

🌸 男女の役割や地位に関する意識についてお聞きします

問1. あなたは、次の各分野で、男性と女性は平等になっていると思いますか。

(①～⑧のそれぞれについて、1～6 の中であてはまるもの1つに○)

	女性の方が 優遇されている	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	平等に なっている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	男性の方が 優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②職場	1	2	3	4	5	6
③学校教育	1	2	3	4	5	6
④地域活動	1	2	3	4	5	6
⑤政治	1	2	3	4	5	6
⑥法律・制度	1	2	3	4	5	6
⑦社会通念・慣習・ しきたり	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体	1	2	3	4	5	6

問2. 「男（夫）は仕事」、「女（妻）は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対
5. わからない

❁ **仕事と家庭生活・地域活動の両立についてお聞きます**

**【現在、既婚（含事実婚）の方のみ】 ※（離死別・未婚の方は 問5へ）**

問3. あなたの家庭では、次のようなことを主に誰が担っていますか。

（①～⑧のそれぞれについて、1～5の中であてはまるもの1つに○）

	主として夫	夫婦 同程度	主として妻	それ以外の 家族	非該当
①日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）	1	2	3	4	5
②生活費の確保	1	2	3	4	5
③日常の家計管理	1	2	3	4	5
④子育て	1	2	3	4	5
⑤高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4	5
⑥家庭における重要な決定	1	2	3	4	5
⑦自治会・町内会等の活動	1	2	3	4	5
⑧庭木や車の手入れ・家の軽微な修繕	1	2	3	4	5

問4. あなたは、以下のようなことを誰が行うのが望ましいと思いますか。

（①～⑧のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○）

	主として夫	夫婦 同程度	主として妻	それ以外の 家族
①日常の家事（食事のしたく、そうじ、洗濯、ゴミ捨てなど）	1	2	3	4
②生活費の確保	1	2	3	4
③日常の家計管理	1	2	3	4
④子育て	1	2	3	4
⑤高齢者、病人の介護・看護	1	2	3	4
⑥家庭における重要な決定	1	2	3	4
⑦自治会・町内会等の活動	1	2	3	4
⑧庭木や車の手入れ・家の軽微な修繕	1	2	3	4

問5. あなたは、この3年間次のような活動に参加したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                   |                           |
|-----------------------------------|---------------------------|
| 1. 県・市町の審議会や委員会などでの活動             | 4. 子ども会などの青少年育成活動         |
| 2. 自治会やまちづくり協議会等の活動（地域の祭り、清掃活動など） | 6. 消費者団体、生活協同組合等の消費者活動    |
| 3. PTAなどの学校行事                     | 8. 趣味やサークル活動（スポーツや文化教養など） |
| 5. 青年団体、老人団体等の活動                  |                           |
| 7. NPOやボランティアなどの市民活動              |                           |
| 9. その他の社会活動（具体的に： _____）          |                           |
| 10. 参加したことがない                     |                           |

※NPOとは、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体のこと

問6. あなたが参加している（したことがある）活動では、次のようなことがありましたか。

※（参加したことがない方は 問7へ）

（①～⑧のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○）

	ある	少しある	ない	わからない
① 行事やイベントの企画は主に男性が決定している	1	2	3	4
② 代表者は男性から選ばれる	1	2	3	4
③ 女性は責任のある役を引き受けたがらない	1	2	3	4
④ お茶入れや食事の準備などは女性がしている	1	2	3	4
⑤ 女性は発言しにくい雰囲気がある	1	2	3	4
⑥ 名簿上は男性が会員だが実際は女性(配偶者)が活動している	1	2	3	4
⑦ PTA 活動は女性中心、自治会は男性中心であるなど、男性と女性の仕事が分けられている	1	2	3	4
⑧ その他（具体的に） [ _____ ]	1	2		

問7. あなたは、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参画していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

- |   |
|---|
| 1. 男性が家事などに参画することに対して、男性自身の抵抗感をなくす        |
| 2. 男性が家事などに参画することに対して、女性の抵抗感をなくす          |
| 3. 夫婦や家族でよく話しあう                           |
| 4. 当事者（夫婦間）の考えを尊重し、まわりの人が固定的な観念等を押しつけない   |
| 5. 社会の中で、男性が家事などに参画することに対する評価を高める         |
| 6. 労働時間短縮や休暇制度が普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする     |
| 7. 男性が家事などに関心を高めるよう情報提供や啓発を行う             |
| 8. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめる |
| 9. 仕事と家庭の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける      |
| 10. その他（具体的に： _____）                      |

問 8. あなたは、男性が「育児休業・介護休業制度」を利用することについてどう考えますか。

(①②のそれぞれについて、1～5 の中であてはまるもの 1 つに○)

	取る方がよい	どちらかといえば 取る方がよい	どちらかといえば 取らない方がよい	取らない方が よい	わからない
①男性の育児休業	1	2	3	4	5
②男性の介護休業	1	2	3	4	5

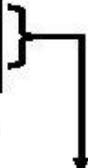
問 9. 男性の「育児休業・介護休業制度」取得が進まない最も大きな理由は何だと考えますか。(1 つに○)

1. 家庭の収入が減少するから	2. 育児、介護は女性が行うものだと思われるから
3. 男性が育児をすることに抵抗があるから	4. 男性の昇進等に悪影響があると思われるから
5. 職場の風土	6. 周囲に取得した男性がいない
7. その他 (具体的に: _____)	

### 🌸 女性の仕事・活躍推進についてお聞きします

問 10. (1) 今の社会全体からみて、女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることがあると感じますか。(1 つに○)

1	非常に感じる
2	やや感じる
3	あまり感じない
4	全く感じない



(2) 女性が働き続けることを困難にしたり、さまたげになっていることは、どのようなことだと思いますか。

(あてはまるもの 3 つまでに○)

1	育児	8	上司や同僚の男性の認識、理解が不十分
2	家事	9	職場での結婚・出産退職の慣行
3	高齢者や病人の世話	10	長く働き続けられるような職場の条件・制度が不十分
4	時間外労働、深夜勤務	11	昇進・教育訓練などでの男女の不公平な取り扱い
5	配偶者・パートナーの転勤	12	女性はすぐやめる、労働能力が劣るという考え方
6	女性の職業意識が低い	13	その他 (具体的に) [ _____ ]
7	家族の無理解		

**【女性の方のみ】 ※現在会社等に勤務していない方は、勤務していると仮定してお答えください。**

問 11. (1) 女性が活躍する指標の一つに、職場環境における女性の管理職登用がありますが、あなたは管理・監督職への昇任を希望しますか。なお、現在、管理・監督職の方は、昇任を希望しましたか。  
(あてはまるもの1つに○)

(2) 希望する (した) 理由を教えてください (あてはまるものすべてに○)

1	希望する (した)
2	希望しない (しなかった)
3	わからない
4	その他 ( )

→

↓

1	やりがいのある仕事ができる
2	賃金が上がる
3	そのポストに目標となる人がある
4	自分にはその能力がある
5	そのポストのステータス(地位・身分)に魅力がある
6	家族から期待されている
7	特に理由はない
8	その他 (具体的に) [ ]

(3) 希望しない (しなかった) 理由を教えてください (あてはまるもの3つまでに○)

1	責任が重くなるから
2	残業や出張が増えるから
3	部下を持つのがいやだから
4	残業しても残業代がもらえないから
5	現場の仕事にやりがいを感じるから
6	目標となる上司がいないから
7	経験やキャリアがないから
8	仕事と家庭・育児等の両立が難しいから
9	周りに上位の同性の管理職がいないから
10	やるべき仕事が増えるから
11	家族がいい顔をしない
12	その他 (具体的に) [ ]
13	特に理由はない

✿ 性と人権についてお聞きます

問 12. (1) あなたはドメスティック・バイオレンス (DV) 被害にあわれたことがありますか。 (どちらか 1 つに○)

1	ある
2	ない

(2) あなたが受けた DV はどのような内容ですか。

(①～⑩のそれぞれについて、1～3 の中であてはまるもの 1 つに○)

		1. 2度 あった	何度も あった	ない
①	「おれがいるときは外出しないように」と言う	1	2	3
②	「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う	1	2	3
③	意に反して、性的行為を強要する	1	2	3
④	殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする	1	2	3
⑤	殴るふりをしたり、ドアを蹴ったりして、おどす	1	2	3
⑥	交友関係や電話を細かく監視する	1	2	3
⑦	話しかけても無視して返事をしない	1	2	3
⑧	生活していけないほどの小額なお金しか渡さない	1	2	3
⑨	大声でどなる	1	2	3
⑩	その他 ( )	1	2	

(3) あなたが DV を受けたとき、どこかに相談しましたか。 (あてはまるものすべてに○)

1	はい
2	いいえ

1	警察
2	家族・親戚
3	友人・知人
4	市役所の相談窓口
5	県の相談窓口
6	民間の相談機関
7	その他 (具体的に: )

(4) 相談しなかった理由は何ですか。 (あてはまるものすべてに○)

1	誰に相談してよいのわからなかったから	6	自分に悪いところがあると思ったから
2	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	7	世間体が悪いと思ったから
3	相談しても無駄だと思ったから	8	他人を巻き込みたくなかったから
4	相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力を受けると思ったから	9	自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
5	相談相手の言動により、不快な思いをさせられると思ったから	10	相談するほどのことではないと思ったから
11	その他 (具体的に: )		

★ドメスティック・バイオレンス (DV) って？

夫や妻、恋人などからの暴力のこと。ただ、暴力といっても殴る、蹴るだけではなく、性的な暴力、ののしる、無視するなどの精神的な暴力、生活費を渡さないなどの経済的な暴力もある。

問13. あなたは、夫婦または恋人における暴力を防止するためには、どうしたらよいと思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

- |   |
|---|
| 1. 家庭で、保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える         |
| 2. 学校などで、男女が対等な関係であることや、暴力を防止するための教育を行う |
| 3. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う          |
| 4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う             |
| 5. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる  |
| 6. メールや電話などで、安心していつでも相談できる窓口を増やす        |
| 7. 学校などに、デートDVの相談窓口をつくる                 |
| 8. 加害者の暴力を罰せられるような制度や法律をつくる             |
| 9. 家庭裁判所、弁護士、警察などの法的援助を行う               |
| 10. 身の安全を確保できる場所（シェルター（避難所）など）の提供を行う    |
| 11. 被害者に対する周囲の理解と協力                     |
| 12. 加害者への指導やカウンセリング                     |
| 13. その他（具体的に： _____ )                   |
| 14. わからない                               |

### 🌸 男女共同参画社会の実現についてお聞きします

問14. 次の「ことば」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。

(①～⑬のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○)

	よく知 っている	知って いる	聞いた ことが ある	知ら ない
①坂井市男女共同参画推進計画	1	2	3	4
②坂井市男女共同参画推進条例（2007年制定）	1	2	3	4
③育児・介護休業法（1992年施行）	1	2	3	4
④女性活躍推進法（2016年施行）	1	2	3	4
⑤配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）	1	2	3	4
⑥ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3	4
⑦ダイバーシティ（多様性の尊重）	1	2	3	4
⑧ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3	4
⑨ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3	4
⑩LGBT（レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（性同一性障害等で、心と体の性が一致しない人）の頭文字を取った言葉）	1	2	3	4
⑪マタニティ・ハラスメント（職場での妊婦に対しての嫌がらせ）	1	2	3	4
⑫デートDV（交際中の若いカップルの間で起こる暴力）	1	2	3	4
⑬坂井市が実施している取り組み（男女共同参画推進委員会・赤ちゃん抱っこ体験 学習・学び女史プログラム・イクボス推進・農業女史プログラム・婚活イベントなど）	1	2	3	4

問 15. あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(あてはまるもの 3 つまでに○)

1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
3. 男女を問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
4. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる
5. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
6. 女性の声が反映されやすくなる
7. 国際社会から好印象を得ることができる
8. 男女を問わず優秀な人材が活躍できるようになる
9. 男性の家事・育児などへの参画が増える
10. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
11. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
13. わからない

問 16. 「男女共同参画社会」を実現するために、今後、行政はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(あてはまるもの 3 つまでに○)

1. 審議会など政策や方針決定過程への女性の積極的登用
2. 民間企業・団体等の管理職に女性の登用が進むための支援
3. 仕事や家事・育児に男女がともに参画する意識啓発
4. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女が共に働く働き方の見直し
5. 男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実
6. 男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実
7. 配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実
8. 保育や介護にかかる施設・サービスの充実
9. 農林漁業・商工サービス業の家族従事者の地位の向上
10. 地域や団体に活躍できる女性リーダーの養成
11. 関係する法律や制度の面で見直し
12. 経営者・企業のトップの意識啓発
13. 女性に不利な慣習の見直し
14. 男性の意識改革
15. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
16. わからない

問 17. 最後に、男女平等や男女共同参画、女性活躍などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望等がございましたら、自由にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。  
ご回答いただきましたアンケート用紙は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて  
**5月17日（金）まで**にご返送いただきますようお願いいたします。

**★男女共同参画社会って？**

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のこと

**★ポジティブ・アクションって？**

男女間の参画の格差を改善するために、必要な範囲で、男女のいずれか一方に対し、必要な機会を与えること

**★ダイバーシティって？**

市場の要求の多様化に応じ、企業側も人種、性別、年齢、信仰などにこだわらずに多様な人材を生かし、最大限の能力を発揮させようという考え方

**★ジェンダーって？**

社会的・文化的につくられた性差のこと。生物学的な性（セックス）とは区別して使われている

**★ワーク・ライフ・バランスって？**

老若男女誰もが仕事・家庭生活・地域・生活・個人の自己啓発など、様々な活動において、自ら希望するバランスで展開できる状態のこと

**🌸 坂井市では現在以下の取り組みを行っています 🌸**

**① 男女共同参画事業**

家庭や地域、仕事などのさまざまな場面で、皆さんが性別に関係なく対等な立場で個性と能力を発揮できるよう、推進・啓発活動を行っています。

（主な取り組み：男女共同参画推進委員会・赤ちゃん抱っこ体験学習）

**② 女性活躍推進事業**

すべての女性がやる気と能力に応じた多様な生き方ができるよう、女性活躍の推進に取り組んでいます。

（主な取り組み：女性リーダー養成研修「学び女史プログラム」・イクボス推進・女性農業者の支援）

**③ 結婚サポート事業**

結婚しない・結婚できない人が増えている中で、少子高齢化対策には子を産み育てていく必要があることから、結婚適齢者に対する出会いの場の提供や、若者の結婚に対する意識を高める取り組みを行っています。

（主な取り組み：婚活イベントの開催・ライフデザインセミナー・親を対象にした結婚支援）



**坂井市**



**坂井市男女共同参画シンボルマーク**